たゞ我が國としては、長期對戰の結果兩虎共に倒れ尙ほその上に東亞への野望を逞しうするソ聯、米國までが共に參戰し共に傷くほど望ましい事はないが、徒らに天の與ふる幸運を待望する時は却つて逆の結果を件ふであらうから、かゝる僥倖を夢みることなく最惡の場合を顧慮し、速かに支那事變を收束して國力を充實し、彼等の捲土重來に備へねばならぬ。特にソ聯及米國が戰亂解結の鍵鑰を握りその擴充せる國力勢威を以て、東亞に對し眞面目なる攻勢を開始したる時こそ、我が國は開闢以來の重大危局に直面すべく、今やこれが對策準備のため一刻千金の重要なる時機である。支那事變に倦怠を感じたり、少々物の窮屈に對し不平を鳴らすの時ではあるまい。

第二十九夜　古代の支那

世界文明の源泉は支那の黃河、印度のインダス、ガンヂスの兩河、中央亞細亞のチグリス、ユフラチスの兩河及エヂプトのナイル河に發すると言はれてゐるが、隣邦中華民國は實にこの黃河文明に發祥した古い國である、その昔黃河の沿岸には支那最古の民族である苗族が棲んでゐた。この種族は今でも湖北、湖南、四川の一部及貴州、雲南の殆ど全部に亙り依然未開の陋俗生活をしてゐる。安南人、バイ人（シヤム人のこと）もこの系統である。

凡そ五千年前に、黃河の上流で支那西北方の肥沃ならざる地方に、水草を追ふ遊牧生活をしてゐた漢民族が漸次下流地帶に移動し來り、先住の苗族を驅逐して現在の山西省汾河流域から黃河流域に亙り、農業に依る定著生活に移つた。始めは伏羲氏に依り漁業を覺え、次ぎに神農に依り農耕を覺え、市場を開き醫藥を知つた。四千五百年くらゐ前に黃帝が出るに及んで、弓矢陣法、舟車を發明し、所在の部落を征服して一統政治の基を開いた。黃帝は家を建てゝ穴居生活を淸算し文字を製し、曆法、算法、音樂等を發明し、官制や貨幣を定め、養蠶を敎へて玆に文化が起り、その威令は黃河の流域から揚子江地方にまで及んだ。

その後堯、舜と相次いで天子となつたが、前者は今の山西省臨汾縣に、後者は今の山西省永濟に都して治世が大いに擧がつた。後世の政治はこの時代を理想とし、帝堯、帝舜は聖人として崇拜せられてゐる。次いで禹が黃河の大洪水を治めた功に依つて王位に卽き、今の山西省夏縣に都して夏の國と稱しその子孫が王位を繼承して、世襲の制を啓き後五回も遷都したが四百三十九年續いて殷の湯王に亡ぼされた。殷は今の河南省偃師縣に都し六百四十四年續いて、周の武王に亡ぼされた。周は長安（今の陝西省西安）に、後河南省洛陽縣に都して八百五十五年續いた。その始めには封建の制を布き、田制稅法、學制、風俗を規定し、學術が大いに興隆した。孔子、孟子その

他多數の聖人や學者の出たのもこの時代である。その末期になると諸侯が互に攻爭して威令が行はれず、春秋戰國の時代を現出した。越王勾踐が吳王夫差と會稽山に戰つて敗れ、范蠡を用ひて臥薪嘗膽會稽の恥を雪いだ話や、蘇秦、張儀の如き雄辯家が出て諸侯の間に奔走し、合縱連衡の策を用ゐた話などはいづれもこの時代の出來事である。

五百年に亙る亂世も、漸く秦の始皇帝に依つて統一せられ、皇紀四百五年に周は亡びた。

始皇帝は今の河南省咸陽縣に都し、封建を廢して郡縣政治を布き大いに外征を起して、北方の蕃族匈奴（土耳古族の祖先）を討つて萬里の長城を增築し、南方は今の廣東、廣西以南の地を定め國威遠くに振つたが、阿房宮その他の大土木事業を起して國民が疲弊したのと、法令が苛酷であり不平を鳴らした學者四百六十餘人を阬に埋め、書物を焚いて知識の源を絕つ如き暴政をやつたがため、僅か三代十五年で亡びた。我が國に不老不死の藥を求めしめたのはこの皇帝のことである。

秦に代つて天下を執つたのは漢の高祖であつて、長安（今の陝西省西安縣）に都し封建と郡縣の制とを併用し、子弟同姓を重用分封して皇室の藩屏とならしめたが、これらが權を爭ふて天下亂れ、三代目武帝の時始めて治まつた。民を治むるに法三章を以てするといふことは、高祖が始めであり、項羽と鴻門に會し、張良や樊噲に救はれたのも高祖のことである。また項羽が垓下に包圍され、虞美人と共に四面楚歌を聞いて大敗した話も高祖に攻められたがためである。武帝は文教を振興し四夷の征伐に力を用ゐた。朝鮮は殷の亡びたとき、その王族箕子が五千人を連れて亡命し、その子孫が代々王となつてゐたが武帝に亡ぼされ、こゝに漢と日本との間に三韓を通じての交通が始まつた。我が國では九代開化天皇の御代である。漢の版圖は東は朝鮮から西中央亞細亞の境に及び、北は內蒙古から南は安南に延びたが、この時代に西方亞細亞に領土を持つ東羅馬帝國との交通が開け、また印度から佛教が傳來した。

漢は二百十年續いて亡び、間もなく東漢の光武帝が天下を執り今の河南省河南縣に都したが、これ亦百九十六年で亡びた。東漢の末期は群雄割據の時代となり彼の諸葛孔明や、支那の各地廟に祭られてゐる關羽、張飛の出たのはこの頃である。東漢の後は、魏、吳、蜀漢の三國時代、西晉、東晉、五胡十六國及宋と魏の南北朝對立時代と約三百五十年間は、異種族混淆の抗爭と興亡とを繰返す亂世に經過したが、皇紀千二百四十一年我が蘇我、物部の兩氏抗爭時代に隋の文帝が天下を統一し、長安（今の陝西省西安縣）に都し漢族の世となつた。この間三國時代には我が神功皇后の三韓征伐があり、南北朝時代には佛教が流行し三韓を經て日本にまで傳來した。

隋は三十九年で亡び唐の高祖がこれに代つた。唐は長安に都し、二代目に太宗の英主が出でゝ

教育を奬勵し、官制、田制、兵制、學制等の制度を定め、天下よく治まり人々は太平を樂しむに至つた。太宗から三代高宗に亙つて大いに外國を經略し、その版圖及威勢は空前の盛大を極めた。即ち政令の及ぶところ東は朝鮮、滿洲より西は新疆を經て中央亞細亞に達し、南は安南、カンボチヤ、ジヤワ、スマトラより北は內外蒙古に普く、その商人はペルシヤ灣から紅海のアデンまで出かけて交易に從事するに至つた。また我が國との交通も頻繁となり、我が國からは留學生、僧侶及遣唐使の派遣となり佛教、儒學を始め諸文物の傳來に依つて、文化は燦然として起り、飛鳥時代、奈良朝時代の盛時を見るに至つた。六代玄宗皇帝の時代も天下泰平で文學技藝の興隆を見たが、晩年楊貴妃を寵愛するやうになつてから安祿山の亂が起り、爾後衰勢を辿り二十代二百九十年で亡びた。この間老子を祖先とする道教が盛んに流行した。また能書家が輩出し、彼の有名なる詩人杜甫、李白の出たのもこの時代である。

唐の後には五代と稱し後梁、後唐、後晉、後漢、後周と五十年間に亙る五朝の興亡が續いた。この間朝鮮の北部から滿洲、內蒙古、北支に亙り蒙古族の契丹（內蒙古巴林部の北、西喇木倫に都し後に遼と號す）が勃興した。皇紀千六百二十年に宗の太祖が河南省の開封に都して天下を統一した。しかしながら建國以來外征振はず、安南を征服して敗れ、遼と戰つて大敗し、金に攻められて國都開封を奪はれ、江南の抗州に逃れて南宗と稱し衰頽を續けてゐたが、皇紀千九百三十九年卽ち弘安の役とて元が我が國に入寇した頃に、三百二十年續いて元のために亡ぼされた。

宋代には儒學、文學が大いに發達して朱熹の宋學が大成し、蘇東坡の如き詩人が多數輩出し、彼の正氣の賦で知られる節義の高い文天祥も、宋末の哀史を語る人である。また宋代には禪宗が盛んになり、その儒學と共に我が國鎌倉時代以後の學術技藝に影響し、文物の進歩を促した。尙ほこの時代には印刷が發達し活字が始めて出來た。

朝鮮半島では新羅が衰へて五代の頃、高勾麗（かうくりー）國がこれに代り半島を統一したが是れ亦宋代に於て遼に降つた。遼は六代聖宗の頃が極盛で、その版圖は東は日本海より西は新疆に至り、內外蒙古と滿洲とを領し、朝貢するもの六十國に及び東亞に於ける最强國となつた。しかし金が勃興するに及び皇紀千七百八十五年、我が崇德天皇時代に、九代二百九年續いて亡びた。

金は滿洲族で女眞と稱したが、太祖が皇紀千七百七十五年會寧（今のハルビン東南按出虎（アルチユホ）水の源）に卽位して國號を金と稱し、遼を亡ぼしてその國土を收め更に北支に進出して宋を追ひ、都を北京に遷し國運振起したが、中世以降漸次衰へ、蒙古の勃興に依り國都を奪はれて河北省の開封に遷り、辛うじて河南の地を保つてゐたが、皇紀千八百九十四年我が鎌倉時代に九帝百二十年續

いて遂に蒙古に依り滅ぼされた。

蒙古は外蒙古地方に棲んで居つた遊牧の民であつて、世々遼及金に屬してゐたが、成吉思汗が立つに及んで内蒙を征服し北支を略し、更に西征して中央亞細亞に進み、遂に高加索山脈を踰えて南露の地を略するに至つた。二代太宗の世には、成吉思汗の孫拔都が將となつて再び西征を企てモスコウ、キエフ等を破つて露西亞の大部を征服し、更に一軍はポーランドに入りシレジヤを略し、波蘭と獨逸との聯合軍を破つてモラビイヤを侵したが、主力軍は匈牙利に入りダニーヴ河を渡り、その一部は伊太利のベニスに迫る等到るところ敵兵を破つて、全歐洲を震駭せしめた。因に拔都は、ヴォルガ河の下流サライに都し欽察汗國を建てた。四代憲宗の世には、その弟旭烈兀（成吉思汗の孫）が西方亞細亞を討ち、波斯に入つてバグダッドを陷れサラセン帝國を滅ぼし、更に進んでシリアを略し兵威を地中海々濱にまで輝かした。旭烈兀も亦タブリスに都し伊兒汗國を建設し西亞細亞の主となつた。

憲宗は更に弟忽必烈をして南征せしめ、四川、雲南地方を定め西藏、交趾支那をも降した。このとき憲宗は一舉に宋を滅ぼさんがため、自ら大軍を率ゐて四川に入り重慶を圍んだ。忽必烈は河南方面から揚子江を渡り武昌を圍み、部將の兀良哈台は安南、雲南を經略して湖南に出で長沙に迫り三方から宋を攻めたが、中途にて憲宗の崩に會し、忽必烈は一時宋の和を容れて蒙古に歸り、都を北京に遷して國號を元と稱し、世祖として帝位に卽き漢人の文化を採用して諸般の制度を定めた。世祖は宋を滅ぼした後朝鮮の高麗を服してその外藩となし、更に我が國に入寇すること二回に及んだが大敗して逃れ去つた。しかし更に南征を企てビルマを破り、シヤム、カンボチヤを從へ、更に南海諸國に將を派遣したがため、元の威令は遠く爪哇、スマトラにまで及んだ。元は世祖の時代を極盛とし、爾後内亂と財政困難とに依り衰微し、皇紀二千二十八年（我が南北朝時代）に、世祖から九十八年成吉思汗が太祖として立つて以來百六十二年續いて明の太祖に滅ぼされた。元代には陸路及海路に依る東西の交通頻繁となり、支那よりは絹、陶器等が輸出せられ、西方からは天文、砲術等が支那に傳へられた。歐洲に東洋の事情特に日本を紹介したマルコ・ポーロはこの時代元朝に來遊して居つたものである。

明は漢人種であつて都を南京に置き、太祖は四方を經略して天下を一統したが、三代成祖に至つて北京に遷都し、官制を改め教育を奬勵し、産業を興して内政が大いに整ふたのみならず、外蒙、安南、南海の諸國を征伐して國威を擧げ通商を盛んにした。しかし十一代武宗の頃から國勢衰へ皇紀二千三百四年（德川三代家光時代島原亂後六年）に二百七十七年續いて亡びた。

明の起ると同時頃、蒙古に帖木兒（チムール）が蹶起し、元の亡びた翌年都をサマルカンド（露領トルキスタンの南部）に定め、伊兒汗國及欽察汗國を滅ぼし印度を攻めてその西部を取り、更に小亞細亞に入つて土耳古軍をアンゴラに破り亞細亞の大半を平定した。その後明を討たんとして軍を起したが、途中で斃れ爾後國威が衰へた。帖木兒五世の孫バーベルは印度に攻め入つてムガール帝國を建設し、その孫マクバルはマグラに都して中印度以北の地を平定し、その曾孫アウラングセフに至つて全印度を統一したが、その死後（皇紀二千三百六十年赤穂義士仇討二年前）諸州の多くは獨立し國勢大いに衰へた。

元時代には歐洲との交通が開けたが、その衰微と共に衰へ特に土耳古帝國が起つて通路を塞いだがため、交通益〻困難となつたが、葡萄牙人、西班牙人、和蘭人は東洋から傳はつた羅針盤を使用して遠洋航海に成功し、アフリカの南端を廻つて印度に來航し、更に馬來半島、フィリッピン群島、スマトラ、爪哇、シヤム、澳門（マカオ）及臺灣まで來り貿易を盛んにした。

明の後には滿洲族の清がこれに代つた。清の太祖は興京に起り明軍を破つて奉天に都し、二代太宗は朝鮮を降し明を滅ぼし、三代世祖は北京に遷都し支那本部の地を悉くその版圖とした。臺灣も始めは明の遺臣が居つて抵抗したが、世祖の子聖祖の代に征服せられた。聖祖は更に內外蒙古及西藏を平定し、その子世宗は青海地方を略した。世宗の子高宗は伊犂、天山南路、ビルマ、シヤム、安南を降伏せしめた。明末から基督教徒が北京に來り聖祖の時、宣教師に依つて正確なる支那全國の地圖を作り、また天文、曆法、砲術、數學等の進歩を促したが、世宗のとき宣教師の中に孔子及祖先の祭祀を迷信として排斥するものが出來たので、基督教を嚴禁してしまつた。

第三十夜　中華の國

我が秀吉、家康時代に、英國人及佛蘭西人は各〻東印度會社を起して東洋貿易に從事したが、支那及南洋諸島の通商は葡萄牙人に妨げられ、日本との貿易は和蘭人に占有せられたがため專ら印度の商權擴張に努めた。印度では英佛の勢力爭ひが起り、英軍は佛軍を破りムガール帝國を滅ぼして全印度をその手に收め、明治十年英國女皇ヴイクトリヤは英領印度帝國の女皇を兼ねた。その後英國はビルマを征服し、馬來（マレイ）半島の諸小國をもその勢力に入れた。

清では世宗の次ぎの高宗の頃から、英人が印度の阿片（アヘン）を盛んに輸入して來た。清廷では阿片が身命に有害のため、屢〻禁令を發したがその效がないので、高宗の孫宣宗のとき更に阿片輸入を嚴禁すると共に、廣東に於ける英商人の所藏した阿片を沒收して燒き棄てゝしまつた。英國では

大いに怒り艦隊を派遣して舟山列島を占領し、廣東、厦門（アモイ）、寧波（ニンポー）の諸港を封鎖して南京に迫り、また別軍は渤海灣に入り白河々口に迫つた。そこで清廷は屈して皇紀二千五百二年（ペルリ來航十一年前）南京條約を結び香港を割き、二千百萬弗の償金を拂ひ上海、寧波、厦門、福州及廣東の五港を開港場とした。これが英國の支那侵略の手始めであつた。支那人は始め白人を馬鹿にしてゐたが、これ以來非常に怖れを抱くやうになつた。

阿片戰爭後廣西に長髪賊の亂が起り、この內亂中に清の官吏が廣東碇泊中の英船アロール號に匿れた罪人を捕へたこと、竝に廣西で佛國宣教師が殺されたことを口實にして、英佛聯合軍は廣東を陷れ、北上して太沽（タークー）の砲臺を拔き天津に迫り、進んで北京を陷れたがため皇帝は熱河に逃れ皇紀二千五百二十年（櫻田門の變があつた年）北京條約を結んだ。この和議に依つて清國は償金各〻八百萬兩（テール）を英、佛兩國に拂ひ牛莊、登州、潮州、臺灣、瓊州（ケイシウ）、九江及漢口の七港を開き英國に九龍島地方（香港の續き）を割き、外國公使の北京駐在を許し基督教の公布を諾した。

清朝はこの外患を始末すると共に、賊に占領せられた南京を奪回し十五年を費して漸く內亂を鎭定したが、これがため國力は疲弊し漢人の勢力が擡頭すると共に、滿人の勢威は次第に衰へて行つた。

露國は久しく欽察汗國に隷屬してゐたが、皇紀二千百四十年（應仁亂の直後）に獨立し、次いで欽察汗國を滅ぼして版圖を擴大しコサックをしてシベリヤを略さしめた。清の世祖、聖祖の頃に黑龍江州のアルバジンに城を築き清軍と戰つたが、皇紀二千三百四十九年（德川五代將軍綱吉の頃）ネルチンスク條約を結び、滿洲の侵略地を清國に還附し外興安嶺を以て兩國の境とした。

露國は一時清國の强勢を避けて、勘察加（カムチヤツカ）半島から北米アラスカ方面の拓殖に從事したが、再び黑龍江沿岸の地に南下し長髪賊の內亂に乘じて愛琿（アイグン）條約を結ばせ、一兵も損せずに黑龍江以北の地を獲得し、且烏蘇里（ウスリー）以北の地を共有にした。次いで烏蘇里江以東の地をも占領し、皇紀二千五百二十年（櫻田門變の年）ウラヂオストツク港を開いて極東の根據地とし、明治八年には我が國と交渉して樺太全島をその版圖に入れた。露國は一方中央亞細亞を經略し伊犂を占領したが、アフガニスタンに入るに及んで英國と衝突し、またパミール方面から印度に南下せんとして再び英國と衝突したが、明治二十一年及同二十八年の兩回に亙り、双方の境界を議定して局を結んだ。

佛國は英國と前後して、交趾支那、東京（トンキン）を領し、越南、カンボチヤ及ラオスを保護國とし、これらの地方を佛領印度支那と稱し今日に至つた。

明治維新以來、我が國は朝鮮を獨立國と認め明治九年修交條約を結んだが、清國はこれを屬國

と見做し依然國政に干渉したがため、明治十五年及同十七年朝鮮の政變に於て日支兩軍の小衝突があつた。そこで天津條約を結び、將來朝鮮に出兵の要ある場合は互に通知すべきを約した。ところが明治二十七年朝鮮に東學黨の亂が起つたので、我が國は清國と協力してこれを鎭定せんことを提議したが、清國は朝鮮が保護國であることを主張して、我が提議を拒むと共に大兵を朝鮮に送つた。そこで我が國も朝鮮王の依賴に依つて出兵しこゝに日清戰爭が起り、我が軍は連戰連勝して旅順を屠り、北洋艦隊を全滅せしめて威海衞を陷れた。清國は媾和を求めたので明治二十八年下關に於て、伊藤博文と李鴻章との間に媾和條約を結び、清國は朝鮮の獨立を認め償金二億兩を出だし遼東半島及臺灣、澎湖島を割き沙市、重慶、蘇州、抗州を開放することを約した。

このとき東方經略に力を用ゐてゐた露國が、遼東半島を日本領土とすることを快く思はず、獨逸、佛蘭西を誘ふて東洋平和のためこれを清國に返還することを勸告して來た。我が國はまだこの三國に對抗する實力に乏しく忍んでこれを容れ、代償金三千萬兩を收めて遼東半島を清國に還附した。

日清戰爭に依つて清國の弱味が暴露すると、歐洲諸國は競ふて種々の利權を強請し、佛國は廣東、廣西及雲南の鑛山採掘權を得、次いで廣州灣を租借し、露國は滿洲に於ける鐵道敷設權を得、次いで旅順、大連を租借し、獨逸は膠州灣を占領してこれを租借し、米國は支那の門戸開放を唱へてその割込みを策した。

支那では基督教公許の結果多數の宣教師が入國するので、國民はこれを嫌つたが、續く白人の經濟的侵入のため更に壓迫を感じてゐるところへ、日清戰爭後次第に加はる外國の政治的壓迫に益〻反感を强め、遂に基督教撲滅、外人排斥を主張する義和團が明治三十三年山東及河北省に起り、その勢ひ頗る猖獗となり清軍もこれに加はつて北京、天津の連絡を絶ち、各國公使館を包圍するに至つた。そこで日、英、米、獨、佛等の八ケ國聯合軍は太沽を陷れ天津を拔き、北京に進んで公使館の急を救ふた。清帝は西太后と共に西安府に逃走し和を求めたので、亂の元兇を罰し、列國へ償金四億五千萬兩を拂ひ爾來北京から海岸に至る間に、列國の守備兵が駐屯することを約した。この戰爭を我が國では北清事變と稱してゐる。

露國は義和團の亂に乘じて滿洲を占領し、更に朝鮮の北境に迫つて威壓を加へて來た。我が國は朝鮮（國號は韓國）の獨立と、東洋平和のため再三抗議をして撤兵を促したが、これを聞かないので遂に日露の開戰となつた。明治三十七年から同三十八年に亙る一年半の戰爭に於て、我が軍は連戰連勝、陸には奉天に大勝し、海には東洋艦隊及バルチック艦隊を擊滅した。そこで米國

大統領ルーズベルトの調停に依り同國のポーツマウスに於て講和會議を開き、露國は朝鮮に對する日本の宗主權を認め、遼東半島の租借權、長春（今の新京）以南の鐵道及樺太の南半部を日本に割讓し、滿洲より撤兵することを約した。

我が國は露國が滿洲を占領せんとしたときから、英國と同盟を結びまた米國の好意に依り、戰爭に利することが出來たが戰爭末期には、英國と攻守同盟を結んでその國際地位を鞏固にし、また明治四十三年には保護國であつた韓國を併合して、總督府を置き統治することになつた。

清國では日露戰爭中中立を守つてゐたが、戰後日本の勢力を滿洲から驅逐せんがため米國を利用することに努め、米國も亦支那への利權割込み政策と、日本の强大を制する目的から滿洲鐵道の買收を計畫し、日本も戰後の財政難から一時賣却の決心までしたが、危いところで取止めにした。その後も米國は更に清國と結んで、法庫門鐵道問題、滿洲鐵道中立問題、錦愛鐵道問題、幣制借款問題等遂には英佛まで引出して、手を換へ品を換へ日本制壓に努力した。露國は日本との再戰を豫期してゐたものゝ、米國の橫槍に對しては、自然日本と協同對抗することゝなり、遂に米國はその目的を達することが出來なかつた。

英國は多年犬猿の間柄であつた露國と協約してペルシヤ、アフガニスタン、西藏についての取極を爲し遂には西藏をその勢力に入れ、露國も亦外蒙をその勢力に入れてしまつた。

清朝は北清事變以來衰弱甚しく、外からは列國の利權侵入に煩はされ、內には外蕃の離脫や民意の擡頭となり、內閣を設け國會を開く政治運動と、利權回收熱が盛んとなつて來たが、明治四十一年この國步艱難の最中、光緒帝及西太后が相次いで崩じ、宣統帝が僅か四歲で位に卽いた。

漢人中には、以前から清朝を覆さんと策謀するものがあり、日本を策源地として密に黨を結び孫逸仙が黨首となり著々準備を進めてゐたが、偶〻四川に亂が起きたのを好機として明治四十四年武昌に兵を擧げ、遂に翌年一月一日假政府を南京に設けて中華民國と稱し、孫逸仙が臨時大總統となつた。清朝では討革軍を南下せしめたが、革命軍が四方に擴大したのと野心家袁世凱の畫策とに依つて、遂に宣統帝（後の滿洲國皇帝）は退位し共和政體となつた。こゝに清朝は十二世二百六十八年續いて亡びてしまつた。

清朝の沒落と共に袁世凱は大總統となり、北京を依然國都としてその權力の擴大に努め、遂には帝王に上らうとの野望を抱いたが、各方面の反對に會ひ大正五年憤悶の裡に死んだ。その後は軍閥爭覇の內亂が續いたが孫文の廣東革命軍は、大正十二年ソ聯と握手して以來、共產黨の勢力が跋扈して國內の赤化、對外不平等條約の撤廢、打倒帝國主義運動を起し所在に狂暴を逞うした

が、孫文の死後は蔣介石が實權を握り共產黨を排斥して、昭和二年南京に政府を樹て、翌三年には北閥軍を起して北京政府の實權者張作霖を追ひ、三民主義の中華民國として、國民黨の一黨政治を行ふことゝなつた。

以上の如く、支那では清朝の末期以來國內の混亂が續いたが、大正三年には歐洲戰爭が始まつたのでその危機に乘ぜられることを免れ得た。しかし獨逸は膠州灣を租借し、南洋の諸島を領して居り、その潛水艦が太平洋を暴れ廻るので、我が國は東洋平和の維持と、日英同盟の義に依つて獨逸に宣戰してその勢力を一掃し、支那と協約を結んで山東省に於ける獨逸の利權を繼承し、旅順大連等の租借期限を九十九ケ年に延長したのみならず、南滿洲東部內蒙古に於ける我が國民の土地商租及居住自由を認め、若干都市の開放等を約した。支那人はこれを以て二十一ケ條の屈辱條約と稱し、後年永く排日思想宣傳の有力なる材料とするに至つた。

第三十一夜　支那事變

さて支那は歐洲戰爭中に聯合軍側に參戰し、巴里の平和會議に於ては、參戰の代償に得んとした利權回收の目的を達しなかつたが、その後米英の對日壓迫政策のための九ケ國條約等に依つて山東問題を有利に解決することが出來た。蔣介石の國民黨政府となつて以來、國權回復熱から排外思想が旺盛となり不平等條約の撤廢を熱心に主唱し、遂に關稅自主權及數個の租界回收に成功した。その排外思想は當初英國を主目標にしてゐたが、華盛頓會議以來の我が軟弱外交と政黨の抗爭、國民の享樂惰弱等から我が國を蔑視し、その上英國の巧妙なる術策に依つて排外目標を我が國に轉換するに至り、昭和二年我が領事館を襲擊して狂暴の限りを盡くしたところの南京事件を惹起し、その北閥軍北進に際しては、居留民保護のため我が國をして兩度に亙り山東出兵の餘儀なきに至らしめ、昭和三年第二次出兵の際、遂りに我が軍に挑戰して濟南事件を勃發せしむるに至つた。

その後列强は、歐洲戰爭の疲弊を回復するため平和政策に出で、經濟的難局打開の口を支那に求めんとして、その歡心を買ふの政策に出たがため益々增長し、國內に於ける共產黨撲滅のため大軍を起して數年に亙る大討伐を實施する一方、滿洲に於ける利權回收のため、露骨執拗なる排日政策を採用し、就中純眞なる青少年の敎育にまでこれを取入れたがため、遂には國を擧げて排日排貨侮日の橫行となり、侵害事件は日と共に頻發猛烈を極め、昭和六年には柳條溝事件が動機となり滿洲事變の勃發を見るに至つた。

右事變の當初、我が軍は僅少なる兵力を以て強大なる支那軍を到るところ電擊的に粉碎し、また上海に出兵して、その狂暴を懲らし居留民を保護した。翌七年には滿洲國が建設せられ、前の宣統帝溥儀を迎へてその皇帝としたのが現滿洲國の始めである。昭和八年には支那軍大擧して長城に迫つたが、我が軍の善戰に依つてこれを北支に擊破し、塘沽に協定を結んで一時戰ひの幕を閉ぢた。

その後北支を緩衝地帶として暫く事なきを得たが、その抗日政策及排日侮日の言動は益〻增大して、國民大衆に牢固たる根柢を培ひ、特に軍備を充實して對日決戰を期するに至つた。これがためには北支を第二の滿洲國たらしめないといふ、第三國の策謀と相俟つて傳統の遠交近攻政策を採用し、先づ共產黨を容れてソ聯の援助を獲得し、英國の指導援助に依つて經濟的中央集權に成功し、これらを利用して地方軍閥の力を殺ぐと共に、排日抗日政策に依つて軍民の關心を、國內抗爭から對日抗戰に轉向せしめ內戰停止、擧國抗日の旗印の下に逐次軍事、政治、敎育の中央集權にも成功し武力、思想、經濟等の各般に亙つて公然と對日開戰の準備を進めると共に、我が國に對する挑戰は愈〻積極化し、支那各地に於ける帝國權益の侵犯、居留民の虐殺、皇軍侮辱等枚擧に遑のないほど現はれ、勢の赴くところ遂に收拾することの出來ない排日抗日の亂舞となり昭和十二年七月七日、北京郊外蘆溝橋に於ける支那軍の不法射擊事件に端を發して、今次の支那事變が勃發するに至つた。

我が國は當初尙ほ不擴大、現地解決の穩便消極政策を以て臨んだが、蔣政府はその軍備に十二分の自信がないとは言へ、二・二六事件等に依つて日本の結束と經濟的實力とに大なる誤判を爲すと共に、ソ聯や、英國の戰爭參加または實力的援助を豫想せると、自ら指導した抗日大勢の赴くところ如何ともする能はず、そのまゝ全面戰爭の渦中に投ずることゝなつた。我が國も亦深刻、殘虐なる不法抗戰の事件が各地に擴大勃發するに及んで、遂に支那軍の暴戾を膺懲し、南京政府の反省を促すために軍を進め同年末迄に、蒙疆及北支の大半を平定し、首府南京を陷落させた機會に和平交涉の氣運を差し向けたが、遂に彼の反省を見るに至らないのみならず、長期抗戰必勝を豪語するに至つたので、昭和十三年一月、事變處理の大方針を決定し、蔣政權の潰滅を圖るため全面的戰爭に移行すると共に、國民政府を交涉の相手とせず、日本と提携するに足る新興政權の成立發展を期待し、これと國交を調整して更生新支那の建設に協力することゝした。

爾來皇軍は徐州に敵の大軍を破り、第二の首府武漢の要衝を陷れて、同年十一月東亞新秩序の建設を聲明し日滿支の互助連環の關係を樹立して、共同防共、新文化の創造、經濟結合の實現を

期すると共に、重慶に逃れて地方政權に轉落した蔣政權及その抗日軍隊に對し、長期膺懲を決意し、全海岸を封鎖して第三國の援助を絶つと共に南昌、廣東、南寧を陥れ海南島を略して、我が領土の二倍に餘る支那重要の土地を皇軍の威武に服せしめ、敵の遺棄屍體百三十五萬の大戰果を獲得するに至づたが、この間汪精衞を首班とする新政府が南京に樹立せられ、日支和平、協同防共、經濟合作の新秩序建設の巨歩を踏み出すことゝなつた。

ソ聯は事變當初から大軍をソ滿國境に展開して日本軍を牽制すると共に、新疆、甘肅を通ずる赤色ルートに依つて蔣政權を援助し以て日本軍を大陸に深入りせしめ、その疲れるを待つて進擊の好機を得んとしたやうであるが、張鼓峰及びノモンハンに於ける日ソ兩軍の衝突に依つて、我が軍の實力を知ると共に第二次歐洲戰爭の勃發に伴ひ、該方面に漁夫の利を得ることに急であつたがため、一時的對日緩和政策に移れる如きも、尚ほ共產黨を通じて蔣政權の援助を續行し、長期抗日を爲さしめて捲土重來までの持久策に出てゐるやうである。

英國は支那事變を以て、百年來支那に扶植した自國權益の喪失と考へ、極力蔣政權の援助に努力したがため、日英の關係は頗る險惡化したが、第二次歐洲戰爭のため極東にまで手が延びないのみならず、印度防衞のため日本を怒らすことの不利を考へ、所謂脅に腹は代へられぬともいふべきか、その後は消極的態度に變じたが尙ほ米國の袖に隱れて、既得權益の擁護に汲々として居り、問題の解決を將來に繫がんとする政策のやうである。

佛蘭西は本國が興亡の岐路に立ち一層深刻なる狀態にあるがため、本事變に對する態度は更に消極的となり、只管英國追隨の政策を採つてゐるやうである。

米國は大陸に於ける日本の成功を以て、米國年來の野望である極東への發展を絶望化するものと考へ、特に歐洲に戰亂勃發後は、英佛の後退に代つて極東への進出を企圖し、自らは東亞の番犬であるが如き美名の下に、借款の授與等滅亡に瀕してゐる敗殘の蔣政權に對し露骨なる援助を爲す一方、我が國に對しては、三十年來の日米通商貿易條約を一方的に廢棄して、經濟的壓迫を加へるのみならず全艦隊を太平洋に移し、その根據地を前進せしめ大軍備擴張を以て日本を威嚇すると共に、將來の一戰を準備してゐるやうである。

これを要するに、支那事變の根柢を爲す東亞永遠の平和を期待するには、積年の禍根である白人勢力の侵略を防止することゝ、支那をして遠交近攻の政策を採らしめないことである。これがためには日本を盟主とする日滿支の提携共助に依る密實鞏固なる一體化を圖り、その新秩序建設に依つて實力を强化し、日清戰爭後に於ける三國干涉の如き策謀や、覬覦の隙を與へないのみな

らず、これを樞軸として東亞諸民族の更生を圖るにある。而して新秩序に依る共同防共のためには、滿洲國に於ける國防線を蒙疆、北支に延伸せねばならず、米英等の海上侵襲に對しては西南國防線を南洋諸島にまで推進せねばなるまいが、歐米勢力の東亞に於ける消長は現在行はれつゝある歐洲動亂の結果如何が影響するところ頗る多く、その前途には逆睹すべからざるものがあると共に、一層東亞の結束強化を急切とする次第である。これを內にしては新政府の發達強化が必要である。これがためには先づ治安の回復が絶對に必要であつてその警察力、兵力を充實するまでは、蔣政權の撲滅と共に我が軍がこれに任ぜねばならぬ。今や蔣政權の影は頗る薄くなつたとは言へ、尙ほ相當の兵力を擁して居り、赤色ルートやビルマルートに依る第三國の援助が絶たれない限り、四千粁に近い長大なる戰線を急に收縮することは不可能であるのみならず、戰略上の關係から大陸の隅まで追ひ詰めることも至難であらうから、長期抗戰を覺悟せねばならず、治安工作については二十年來培養し來つた排日抗日の國民思想が、あまりに深刻に徹底してゐるがため遽に親日滿防共に轉向せしめるには容易のことでなく、滿洲國建國以來の實例に依るも、長年月と多大の經費を要することであらう。

日滿支共存共榮のための經濟工作は、先づ食糧の自給自足の道を講じてやり、幣制を定めて通貨の安定疏通を圖ると共に、埋藏資源就中重工業資源の開發を始めとし棉花、羊毛、鹽等資源の培養、開發及びこれがために必要なる交通施設の要があり、これらは何れも五年、十年の計畫を以て進まねばならぬから、我が國としては莫大なる資本と、優秀なる技術とを提供して、協力指導に任ぜねばならぬ。また支那民衆をして新秩序に共鳴し、東亞更生に協力せしめるための文化工作に至つては、少くとも三十年乃至五十年を要するであらう。

第三十二夜　中華民國の民情

支那人が中國または中華と稱して、自國に對する自尊心の頗る強いのは、四千年の古い歷史を有することゝ、領土が廣大で人口の多いがためである。卽ち東は海、西は中央亞細亞、北はシベリヤ、南は印度と境し、廣袤實に四百三十萬方哩で、歐洲大陸よりも廣く、日本の約二十六倍に當る世界一の大國である。

世界の屋根パミールから出た三大山系中のコンロン及ヒマラヤ山系は印度と西藏を境して、亞細亞を南北に分ち、天山々系は支那と中央亞細亞とを境して、北部亞細亞を東西に分けて居りこの三大山系に圍まれた支那は自然四つの地勢に分れてゐる。卽ち蒙古、新疆、西藏の高原地帶、

黄河及白河流域の北支那平原、揚子江流域の中支那平原及び粤江流域の南支那平原がこれである。この各地域は各〻經濟、文化、風俗、習慣を異にし、その程度は歐洲に於ける各國民族の差と同樣であつて、往時は歐洲に於ける如く各國に分離して互に抗爭したことも屢〻である。從つてこの尨大にして各地方の相違は支那の統一に種々な影響を及ぼしてゐる。

支那の東半部は海岸に接し、一般に平原が多く、河川運河の交通が開け鐵道も敷設せられて、農業が廣く行はれ人口の大部分を抱擁してゐる。これに反し西半部は大山脈が縱横に横はり、交通不便な高原地帶であつて遊牧生活を送るものが少くない。これらの地帶は支那本部と區別せられ、中央部の威令が十分に行はれないのみならず、西藏や外蒙の如く第三國の勢力内に入り、新疆の如きもソ聯に接近しつゝあるやうである。

北支那平原は氣候が寒冷高燥で、産物も現在のところ大して多くはないが、中支那平原は最大の平原であつて約二億の住民があり、産物の大部分がこゝから出で支那の心臟部と稱せられてゐる。南支那は氣候炎熱で穀物の如きは年三回の收穫があり、天與の地ではあるが粤江の流域が狹く、他は概ね山地である。しかしまだ開發はせられないが地下資源に富んでゐる。

北支那の村落が厚い土壁で圍まれた集團部落を爲し、各戸もまた土壁を繞らした閉鎖的なものであるに反し、中南支那は日本の村落に似たところがあり、食物も北支那では多く高粱、粟、玉蜀黍を主食とし、また麥粉を用ふるが、中南支那では米を主食としてゐる。言語も南北では全く通じない程異なつてゐる。また北方人は體格が優り忍耐力が強く、素朴で才には長けないが、南方人は悧巧で議論が多く、新奇を好み思想が新しいので文化が進み革命や流行の源泉地となる。即ち支那の歷史は南方の文化と北方の武力との爭鬪史であると言へる。經濟上から見るも南方の豐富なる物資を目指して、貧弱なる北方人が南下する關係からも同樣の爭鬪が起るわけである。

支那の人口は約四億萬と稱せられ、世界人口の四分の一、歐洲の全白人數に相當すると言はれるが、最近一、二百年間は殆んど增加して居らぬといふ說がある。それは戰亂や天災の影響と産業が發達しないがためで、食糧の自給自足が出來ず、全國的に産兒制限が行はれてゐるがためで初生兒を殺すもの、二男一女制を採るもの、女兒を殺すもの等種々の風習があるやうであるが、日本の援助に依つて産業が開發せられたならば、産業革命後の歐洲や、維新後の日本の如く急激な人口增殖を見て、將來恐るべき勢力となるであらう。

人口の密度は支那本土平均二百七十人であつて、日本の四分の一に當り山東は最大で七百人、廣西が七十人、蒙古、新疆は僅か二人である。

支那人は大部分が漢民族であつて三億七、八千萬を占めてゐる。滿洲民族は二、三百萬と稱せられるが、支那本土にあるものは殆んど漢民族に同化せられてしまつた。蒙古人は三百萬內外であらうがその分布は廣範圍に亙り種族も亦多樣である。回族は昔の匈奴で土耳古人系である。回教を奉じその數は約二千萬、新疆、甘肅に多く住んで居り、尙ほ雲南、陝西、河南その他各方面に分布してゐる。西藏民族は約七百萬と稱せられ、喇嘛教を奉じ言語風俗を異にしてゐる。前住民の苗族は雲南、貴州地方に居り、幾多民族と混血しながら原始的生活を爲し辛うじて餘命を保つてゐる。

日本が新支那の建設を輔導助長して日滿支の一體化を圖り、自ら盟主となつて新秩序の下に共存共榮の永久性を把握せんがためには、その相手である滿支兩國の主要構成人種、卽ち漢民族に就いての知識が必要である。漢民族は他の到底追隨し得ない美點長所を持つてゐるが、今日の疲弊を招くに至つた短所缺點も決して鮮少ではない。日本人も古來支那文化の輸入に依つて發達し、また往古に於て多少漢民族の血液をも混じてゐる關係上、彼等の短所をも亦相當に持つてゐると思はれるから、決して輕侮の念を起さず他山の石として自らも反省することが肝要である。特に善隣友交協力共和の根源は、互に信賴し互に敬愛するところにあることを深く考慮せねばならぬ。

さて支那人を社會的境遇から觀察すると、知識階級と文盲階級とに分けることが出來る。また前者は學徒(讀書生ともいふ)、浪人、權力者に、後者は農民、勞働者、兵及び匪に區分し得るであらう。しかしこれらは決して固定的のものでなく、天災や兵亂やまた個人の努力、運命に依り絕えず移動が行はれてゐる。支那人は日本人や白人に決して劣らぬ優秀なる頭腦を持つてゐるが、大部分は無敎育者であるのと、無敎育階級の數千年に亙る傳統のため、頭腦が固定して敎育對象とならないものが多く、これらが文盲階級を構成してゐる。

支那の學徒とは就學中のものと、卒業後就職に溢れた壯士的存在のものとあり、これらの言動は時の政治や社會に大なる影響を及ぼすもので、秦の始皇帝はその煩累を絕滅せんがため書籍と共に彼等を焚殺して、却つて秦室の壽命を短くし、淸朝は歷代彼等を重用して試驗や編纂に沒頭せしめ他を顧みさせなかつたがため、五百萬の滿人を以て三百年に亙り克く數億の漢人を治め得た事例もあり、現在の如く政治社會の急激な變遷を辿る道程に於て彼等の役割は善惡共に甚だ大である。孫文が革命に成功したのも彼等を利用したがためであり、蔣介石が排日を煽動し支那事變を起したのもこの連中が宣傳に乘り、お先棒を擔いだがためである。汪精衞の新政府も彼等獲

得に成功することが肝要であらう。

浪人とは文武權力者の失脚した在野失意中のものであつて、常に當該爲政者に反感を抱き、密かに兵、匪または外國の軍部政客に連絡を取り、王侯將相何ぞ胤あらんやと常に天下を窺ひ、爪牙を磨き時には暴力團長となり、時には部將となり、風雲に乘じては大權力者となるものである。彼等の中には擧兵資金幾何を支出したならば、何旅團、何師團と立ちどころに編成し得るやう周密なる準備を整へ、時の至るのを待つてゐるものがある。

支那從來の權力者は文武の官に在職し、自家の一黨を率ゐて身邊を固め常に我利と保身とに汲々とし、巧言術策を弄し、搾取と收賄を事とし、下情民益を顧みないで、怠慢と耽溺の生活にその日を送り、外國銀行に多額の預金をして一生の喰ひ扶持とし、また一旦の失脚に備へるのである。將來の爲政者は漸次反省して善政を行ふものとは信ずるも、古來積年の弊風は容易に一掃せられないのではないか。

農民及び勞働者は「日出でゝ起き、日入つて息む、井を鑿つて飲み、耕して喰ふ、帝力我に何かあらんや」といふ調子で、爲政者からは何等の庇護を受けないばかりか、その苛斂誅求に訶(かい)まれ、一旦兵や匪の掠奪に會しては財産の全部を奪はれ、打續く天災には一家離散の運命に虐げられるも、沒法子(メーファハーズ)の一語を以て諦め、日夜營々孜々として身を削るやうな勞働に從ひ、動物的低級な生活を送つてゐる。彼等は實に支那の中堅階級であつて人口の大部分を占め、國家生存の基調である重要生産に從事しながら、常に爲政者及兵匪の上下兩層から搾取せられる最も可憐なる犧牲者である。

兵と匪はその身分が官に屬するか、無賴であるかの區別はあるが他人のものは自分のものと考へ、成るべく働かないでのろ〳〵とその日を送るところの良民から遊離した階級である。支那では古來幼稚なる農業經營を續け、限られたる生産に對し早婚に依る大なる人口增殖のため、生活困難なるところへ戰爭や天災に依る災害の救濟方法を講じないがため、その都度多數の流浪者を出し、これらが土匪となり乞食の群となり野心家に利用せられて屢〻亂源を爲してゐる。時には達識の爲政者が出て大土木事業を起してこれに吸收することもあつたが、多くは兵に徵して自家權力の擁護擴大に供したがため、自然に兵力は過大となり養兵の資力に乏しく、その上に上級者の横領、頭刎ね等に依る給與の稀薄は兵をして止むを得ず土匪類似の行爲を爲さしむるに至り、遂に兵と匪との一體觀を爲すに至つたものである。彼の萬里の長城築造の如きは、失業群を邊疆に集めて救濟すると共に國防線を建設し、且中央を窺ふ野心家をして利用に困難ならしめた一石

三島の名案であつたと思ふ。支那では古來「好鐵釘に打たず、好人は兵に當らず」とて、良民は兵にならぬ、兵は最も下劣な始末の惡いものであるといふことが常識になつてゐるので、文を尊び武を卑しめ日本兵の强いのには適はぬが、それだからとて日本を尊敬する念を起さないとのことである。しかしながら蔣介石の國民軍は全くその面目を改め、兵は良民から徵集せられて純眞であり、從順にして克く困苦缺乏に堪へ、中、下級の將校は勤勉にして愛黨心に燃え、劣れる裝備を以て善く戰ひ敵ながら賞讃すべきものがある。

第三十三夜　漢民族の長所

漢民族の長所はその生活力が頗る强靱であつて、自存自衛の念が甚だ强いことである。支那の歷史は易朝革命の連綴であつて、混亂の絶え間なく時には數百年の混亂期が續き、天災は數年毎に起り、その上爲政者は法三章の治などゝ稱して、只管搾取するのみで、放任政策を執つたがため、人民はこの數千年に亙る人禍、天災の試練に依り自然に自己生存の道を講ずることゝなり、以てその國民性を招來發達せしめたものであらう。從つて彼等は鄉村毎に或は業種毎に堅固なる社會結合を爲し、獨立自衛してその生業を營み官憲や爲政者を以て無用の邪魔物視するに至つた。

日本の如く國家が先づ發達して、個人や社會の自營力が弱く官憲に依賴し、軍隊に追隨し、就職には紹介狀を、事業には補助金や寄附金を漁る等、依賴心の强い性情は支那人を以て他山の石とし、自力更生の精神を涵養しなければならぬ。

次ぎの長所は非常に適應性に富んで居ることである。國內に於ても水の低きに就くが如く盛んに移住して今日の大を爲したもので、滿洲國の如きも僅々數十年の間に漢人化し、內蒙古にも著々發展しつゝあるのみならず、國外に於ても華僑として大いに發展し、行くところ必ず堅固なる地盤を開拓してゐる。卽ち氣候風土の變化に堪へ、虐政の下に隱忍し國力の背景を有せず支配者的ではないが、克く社會の深層に喰ひ込み實利を攫む底力がある。彼等は一攫千金を夢みないで、勞働者より小賣商人、小賣商人より大商店、地主へと一歩々々健實なる地歩を進め、その生活は極めて質素で地位が向上しても決して奢らない。而も冒險的で奥地に乘込み、且相互の團結が鞏固であるがため到るところ成功しないものはなく、就中福建、廣東から移住する南洋華僑はその數一千萬に及び比律賓、馬來半島、蘭領印度、タイ國、佛領印度支那、英領ビルマ等では經濟的實權を握る富豪も頗る多く、彼等の故鄉への送金は毎年莫大なる額に上り、蔣政權も彼等の貢ぎを大なる支援と賴んでゐるやうである。日本商人の如き軍隊の駐屯するところに出かけて、一

攫千金を夢み虎の威を借りて横暴を働き、驕奢な生活に我が世の春を歌ふかと思へば、撤兵に會して倉皇と引き揚げるが、殘留するものは忽ち支那商人に敗北するなど、慨嘆に堪へぬ次第である。

第三の長所は偉大なる同化力を有することである。彼等は往古より爛熟せる文化を築き上げ、屢〻梟雄なる北方蕃族の支配下に陷りながら、長年月の間に剛健なるこれら征服者を、その享樂腐敗の文化に感染同化せしめて墮落に導き、依然として自己民族の繁榮を持續してゐる。彼の馬上で天下を取り遠く歐洲を蹂躙した慓悍なる蒙古人が、今日の如く骨無し民族に零落したのは、固より軍の裝備が弓馬から銃砲舟車への變遷に追隨し得なかつたことにも因るが、腐敗文化の汚毒たる性病の蔓延に因ると言はれ、また清朝の遠大陰險なる政治工作に依るとのことである。即ち乾隆帝はその皇后の病氣治癒の祈願として、西藏から班禪、達賴の兩喇嘛教主を熱河省の承德に招き、全治報恩に事寄せて大喇嘛廟八寺を建立し、一定の考査を經た優秀なる千人の蒙古僧を招致して大いに優遇はしたが、教義上妻帶は出來ず、また歸國を許されないがためその死亡に依る缺員を考査に依る優秀者を以て補充し、他方北支に於ても同樣喇嘛廟を建立して優秀蒙古人を集めること二百數十年に及んで、遂に蒙古族の優秀血統を殆んど根絶するに至らしめたと言はれてゐる。

第四の特長は保守主義であつて非常に忍耐力の強いことである。保守主義は農本生活、家族生活から來たものであらうし、忍耐力は頻繁に見舞はれる天災と強權下の桎梏に堪へ忍んで來たためであらう。この忍耐からは從順性が生まれ、また無關心とか老獪性を生じ更に強い斷念性を持つことになつた。即ち強權に對しては柔順であり、政治には無關心であり、政爭の渦中には老獪を以て韜晦し、保身の道を講ずるのが最も無難であり、強い忍耐力も執著心も愈〻絶望の場合は「沒法子（メイファーズ）」を以て綺麗に諦めて仕舞ふ方が、結局後腐れになくて自身は固より家族や子孫にも惡影響を殘さないからであらう。しかし漢民族は征服者であり、中原を占めて四方を從屬せしめるといふ自尊心が強く、強權に對する忍耐の裏には常に強い叛逆心を祕めてゐる。また弱者に對しては猛烈なる優越性を發揮するのが常である。從つて從順中に驚くべき剛情を發揮し、無關心かと氣を許せば寢首を掻かれることがある。また強者を一旦弱者と見た場合には頗る慘酷な行爲に出で、これに群衆性が手傳ふと一層熾烈なる狂暴を演ずることがある。

第五の特長は大陸的優良性を持つてゐることである。尤も廣東人のやうに山川近く相交はる地帶に住むものは、日本人に似た性情を持つものもあるが、大體に於て悠長呑氣なところがある。

粗衣粗食に甘んじて、終日無爲に暮す閑人が甚だ多い。小鳥を愛するものはこの性情からであらうし、家畜の馴致が非常に巧みなのもこの特性に依るからであらう。また要談の場合には例の老獪性もこれに加はつて、自分に都合の悪い話は何とか口實を設け、荏苒として時の流れを待ち、その間に環境の變化や、相手の氣が變るか熱意の薄らぐのを待つといふ風にて、短氣な日本人には隨分手古摺らされる苦手である。從つて時には短兵急に最後的解決手段に出ねばならぬことがある。

支那人は語學の才能があり、巧言怜色頗る辭令に長じ交際上手であり、また宴會好きである。しかし一方頗る用心深いところがあつて日本人のやうに早合點をしたり、安請合をしない國民である。從つて心にもない世辭に一杯喰はされたり、過早率直に當方の意思を發表するに拘らず、先方が容易に應じて來ないのに業を煮やすが如きは、日本人の性癖上愼まなければならぬ。これ蓋し支那の歷史が治亂興亡の連綴であり、保身上の必要から生まれたことであらう。彼等の身邊には絶えず危險が附き纏つて居り、側近者や使用人とてもどんなに毒牙を磨いてゐるか判らず、常に心を許し安泰たるを得ないのであつて、饗宴に招待を受けても投毒に警戒を要し、しかも數ケ月後に緩慢なる中毒症狀を呈する如き惡質なものもあつて、油斷も隙もなき社會生活である。

上流のものは一般に怠惰であつて奢侈享樂に耽溺するものが多いに反し、下層大衆は頗る勤勉であつて貯蓄心は特に强く、廢物の利用に長じ決して物を粗末にしない良習を持つて居り、また算數に明かで、如何なる文盲でも金錢の勘定となれば他人の懷中をも算定するてふ天才的技能を持つてゐる。從つて個人商業や勞働力にかけては到底日本人の敵するところではない。

支那人の社會單位は家族であり、次ぎには同族であつて、先づ數十人の大家族を擁して自衞と自營とを圖り、更に同族の信賴性に依つて大を爲すのである。從つて一人が立身出世をすれば同族同鄕のものが押しかけてその扶養を受くるから、賄賂や搾取等餘程の收入を圖らねば多人數の扶養は困難である。しかしこの立身出世をば人生の最大幸福と考へるから、彼の論語の開卷第一頁に「朋有り遠方より來る、亦樂しからずや」の文句がある如く、「朋は上君に仕へ、下友に交る」の友にて、同族同鄕のものが扶持臣事のため多勢集まつて來る盛況を述べたものであらう。

その他支那人は孝心が大で、師弟の情誼が厚く、年長者を敬ひ、また婦女を大切にする性情がある。從つて婦人の面前で身體を露出したり、婦人の部屋を覗くことを非常なる無作法と考へてゐる。

第三十四夜　中華の社會

支那人は古來國家的觀念がなく、その統治形式や政治の理想は天下を取り、天下を治め、社稷を安泰にするにあつて權力の及ぶ範圍を天下と稱し、その消長に依つて大小はあらうが、明確なる國境の認識はなく、邊疆の茫漠たるを以て滿足してゐる國民である。また各地方から朝貢すればそれで天下を取つたことゝなり、その內部に立ち入つての拘束的支配をやらない傳統を持つてゐる。社稷とは宗廟のことで統治者一門の繁榮安泰を圖り、叛亂者や簒奪者が出なければそれで天下は泰平などである。權力の及ばない邊疆をば化外の地と稱し何をして居つても構はないが、只自國の領土としてその廣大を誇る自尊心の滿足を得ればよいのである。彼のソ聯や英國が、外蒙、新疆、西藏地方に實質的に勢力を伸ばしても表面支那の領土としておけば、あまり敵愾心を起さないのである。從つて萬里の長城の如き明確なる境界を以て滿洲國の分離したことは、民衆に對する反日宣傳の效果の大であつたことが想像せられる。しかし元來が順應性の强い且諦め易い國民であるから何時とはなしに忘れてしまひ、これと手を握るやうになるものである。

支那の歷史が天下的統治形態を以て終始したがため、統治者の一門一黨こそは保身上忠節の觀念を持つが、地方や一般大衆は朝貢納稅の義務を負はされるだけで、自存自治の鄕村的社會生活を營んだがため、國家を愛し統治者に忠節を盡くすの考へは起らなかつたやうであるが、國民政府となり、就中蔣介石が政權を握つて以來近代的國家統制を行ひ、思想、風俗、習慣等國民の內部にまで急激な革新的指導を加へたがため、元來自大思想が强く英雄崇拜思想のあるところへ、列强の壓迫侵略に會してその骨身を削られ、膏血を搾られるの苦痛を嘗めては敵愾心が起り、先覺者たる學徒讀書生の熱烈なる宣傳に依つて國家的自覺を促し、民族愛が急激に勃興し、孫文や蔣介石の如き指導者に對し忠節とまではゆかないが、大なる景仰心を持ち、喜んでその指導に服するの氣風を馴致するに至つた。今次事變に蔣政權が連戰連敗、國家の主要部分を失ひ、困窮三年に及んで尙ほ餘命を保持してゐるのは支那が半封建的軟體動物であつて、身體を割れても容易に絕命しないのであるとか、第三國の輸血に依ると說くものがあり、いづれも眞理を穿つてはゐるが、一面この十數年に於ける支那人の國家的覺醒の結果であると判斷したい。

支那人が大いに覺醒しつゝある點には、十分の關心を持つと共に四千年間爲政者に放任せられ、その生存上自然に馴致せられた性格は、一朝一夕に更改せらるべきものでもないから、この特種性にも大いに留意を要する。しかしその特性とても生を愛し、現世を享樂し、子孫の繁榮を祈る

人類の根本理念から派生したものである。即ち彼等の守本尊である福、祿、壽の願望實現から起つてゐる。福は子福者を意味し、子孫の繁榮を願ふところから性生活に異常の享樂を求むる點は白人に似て居り、壽の意味する不老長壽の慾望と共に食需に大なる關心を持ち、自然に料理の進歩を促して下層階級にまで普遍する、安價で精力的、榮養的支那料理こそは蓋し世界第一であらう。祿は高祿を食み財を得ることを意味し、これらに胚胎した性情習俗も頗る多いのである。尙ほ若干の特性を列擧すれば左の如きものがある。

一、支那人の有產者は一夫多妻である。これは子孫の繁榮を目的とするは勿論であるが、一面非常な淫蕩性を意味し、有毒の阿片を吸煙するのもその享樂を助長せんがためである。多數の妻妾を操縱するところから自然社交性や操縱の方に長じ、妻妾相互の嫉妬や陰謀は子供に實物教育することゝなり、猜疑心や謀略性を養ふやうになつた。

一、官憲の保護なしに自己の生存を圖らんがために極端なる利己主義、個人主義思想の持ち主となつたが、自己の生存を强化せんがためには、仲間の信用を厚くし、約束を守る良習を持つてゐる。また協同の力を利用せんがために同族、鄕村、同業間の團結は鞏固であるが、忠義心とか義を見て仁を爲すとかの思想はないやうである。排他協力のための宣傳が巧みであり、同時に自らも亦宣傳に乘り易く且雷同性を持つてゐる。

一、利己主義から極端なる金錢慾を生じ、萬事が打算主義であつて零碎の利を爭ひ、賭博を好み利のためには義理人情を忘れ、屢〻忘恩や叛逆行爲に出ることがある。また嘘言を吐き盜癖を生じ、自己の面目をも犧牲にする。盜んだものも返せば罪がないものと平然としてゐる。

一、明日を保證し得られない不安なる社會情勢であつたがため、萬事が現實卽效主義で遠大の考へに乏しく、目前の利を爭ひ金利とか保險とかの長期利潤に關心が薄い。また樹木を切つても植林をしないから、北支の如き屢〻洪水に見舞はれ且燃料に窮してゐる。脊の高い收穫量の少い高粱を作付して敢て短莖を考へないのは、その幹を燃料に供せんがためである。

一、事大思想から尊大であり面子（めんつ）を重んじ、見榮坊である。これがために金錢を惜まぬことがある。但し實利と面子と兩立しない場合は祕かに實利に就く。また面接して謹直溫顏を裝ふも內心女夜叉で、口と心と全く相反することがある。賣名的行爲や大言壯語の多いのも面子からである。

一、支那人は隴を得て蜀を望むといふ諺がある如く、增長性が强くその慾には限りがなく、威張らせばどこまで威張るかわからないくらゐ中庸に止まれない國民である。また文弱の國民であ

つてその性は臆病であり、甚だ死を恐れるが、その反面に於て獰猛冷酷なる殘忍性を發揮し、陰險にして猜疑深いところがある。

以上の性格は四千年間培はれた弱肉强食、冷酷無情なる社會情勢の反映であり、また易世革命のため昨は元に仕へ今は明に臣事し、晨には越客を送り夕には吳客を迎へる變轉の世に處して、保身の術に苦心し、榮達の法に浮き身を扮すことから馴致せられたものであり、その間には無智から來る迷信も手傳ひ、大陸性氣候の影響もあるであらう。しかしながら支那人全體に就いて仔細に觀察すると、これらの特性が必ずしも明瞭整然とは現はれて來ず、相反する性情を發揮することが屢〻であつて、その複雜多岐、捕捉し得ない性格には單純なる頭腦の日本人には到底讀切り得ないものがある。これ蓋し長年の間に中原の漢民族が、周圍の所謂夷狄蠻戎と雜婚混血し、各種民族の特性を混入享受してゐるからであらう。

汪精衞を首班とする新政府が南京に遷都し、日本援助の下に日支和平、協同防共、經濟合作の政策を實行し政權の强化擴大を圖りつゝあるが、この政府は孫文の革命政府を繼承したものであつて、國民黨以外の國民代表者及び實力者をその組織に加入した外は、蔣介石の前政權と違つたところなく、依然三民主義を以て政治の基調としてゐる。

三民主義とは民族主義、民權主義、民生主義の事であつて、民族主義とは國家觀念を喚起し、民族の團結を鞏固にして一切の外國の束縛を除去し、民族の解放を圖りその國粹を恢復發揮せんとするにある。民權主義とは民權政治を以て四千年來の君權政治に代へんとするにあつて、人民は政權を持つが政治には無能であるがため、有能者に治權を與へて政治を依託し、人民は選擧權、罷免權、創制權(法律の制定權)、復決權(法律の改廢權)の四政權を握つて政府を管理し、政府は行政權、立法權、司法權、考試權(官吏の銓考拔擢權)、監察權(官吏を監察彈劾する權)の五治權に依つて政治を行はんとするにある。民生主義とは國民の生活問題を解決せんとするにあつて、土地問題を解決して農民生活を保證し、資本の充實に依つて實業を發展せしめんとするにある。

政府の實力を强化するには、先づ兵權を握り警察力を充實することが必要であるが、これは逐次整備せられることであらう。

政府の財政は主として關稅、鹽稅及び統稅を以て賄はれるが、前二者は殆んど確定の財源であり、統稅卽ち煙草、燐寸、酒、織物、製粉等の源泉課稅は、治安區域の擴大と產業の恢復興隆に依り漸次增加するであらう。因に所得稅のないのは支那の特徵である。地方財政は地稅、居住稅、

傭人税、車畜税、通行税その他地方に依り各種の雜税を以てせられ、徴税の方法は逐次下方廳に對し額を指定しての請負制であるがため、こゝに官吏の私腹を肥し、賄賂を取り、苛斂誅求の行はれる素因を持つてゐる。その實情は廣い支那のことゝて各地方に依り寔に混沌たる有樣で、甚しきは五十年後までの税を豫納せしめたとか、一里毎に一割の通關税を徴したとか、監獄は身代金を徴せんがため人質收容所に化するとか、想像にも及ばぬことが行はれて居る。その上軍隊の駐屯地に於ては、無償で宿舍食料を徴用し、或は隨意課税し、戰爭には掠奪を行ふを常態としてゐる。また山東、河南及び安徽、江蘇の北部、陝西、湖北、四川等には到るところ大小の土匪が居つて、課税掠奪を恣にし、言語に絶するものがある。一方農民はこの上に尙ほ借財や壯丁の强徴に苦みながら、朝は暗黑時より野良に出で默々孜々として働き、貧苦の生活を續ける有樣は憐むべく、また感嘆せざるを得ない。

幣制、金融等は事變のため混亂滅裂の狀態にあるも、漸次制定、安定、疏通せられるものと思ふ。また度量衡は既に前政府に於て定められあるも、その實情は全く不統一亂雜で、各省各縣に依つて異なり、縣下各地に於ても異なるのみならず、同一町に於ても商賈に依り家に依り異なる有樣である。今政府所定のものを略記すれば左の通りである。

長さ　歩（五尺）、丈（十尺）、里（千八百尺）
尺は日本の尺と略ゝ同樣、一里は日本の五町十六間に相當する。

量　合（十勺）、升（十合）、斗（十升）、斛（五斗）、石（二斛）
一升は日本の五合七勺に、一石は日本の五斗七升四合に當る。

衡　分（十厘）、錢（十分）、兩（十錢）、斤（十六兩）、擔（百斤）
一斤は日本の百五十九匁に當る。

面積　弓（五尺平方）、畝（二百四十弓）、頃（百畝）
一畝は日本の六・一九五町歩に當る。

第三十五夜　對支心得

支那の産業は邊疆が牧畜時代であり、本部は農耕時代、海岸、河川の沿岸一部には農工時代に入りつゝある。その主體は農業であつて、廣大なる土地を有し、人民の八割以上が農民であるところの世界に於ける大農業國である。北支那は畑作であつて麥、高粱、粟、玉蜀黍等を産し、中支那は水田が多く米作が盛んである。南支那は農作が盛んであるが、平地が少く人口過多のため

食糧を中支那及び外國に仰いでゐる。鐵道の延長に依り、漸次邊疆の地をも開墾せられつゝあるが、全般から言ふと食糧の自給自足の出來ない國である。その原因は耕作法が幼稚であり、大農法をやらない等の外、旱天や水害のため大凶作が六年に一回、凶作が三年に一回、平年作は三年に一回くらゐにて、その他は不作で農作がないと言はれるのみならず、時々數十縣に亙る蟲害が發生するからであつて、日本の進歩せる農法を傳へ治水、植林、灌漑、害蟲驅除の法を講ずる必要がある。特に北支那に於ては黃河の治水、運河の開通、乾澤、耕土の鹽分除去及び五原地方の開墾等は日本の援助に依り是非著手を要する問題であらう。

農產物は米國に次ぐ世界第二の產地たるの素質を持つてゐる棉作の奬勵こそ、日支共に急務とするところである。その他桐油、種油、落花生油、茶、煙草、生絲、鷄卵等增產の餘地は甚だ大きい。牧畜も盛んであるが、特に羊毛の奬勵が肝要であり、軍馬の資源を養ふことも必要であらう。

工業は職工の募集が容易であり、勞銀が安く棉花の入手が容易のため、紡績業が發達の緒につき、製粉、燐寸、煙草、硝子、セメント、皮革、製油等の工業が行はれてゐるが、文化の程度や日本產業の立場から粗工業の發達を促す必要があらう。

支那は地下資源に富み、莫大なる各種重要鑛物が藏されてあるに拘らず、鑛業の最も遲れて居る國であるから、日支經濟合作の第一著手として、地下資源の開發を最も重視しなければならぬ。これがためには揚子江沿岸等直ちに搬出し得る地方から著手すると共に、北支の港灣、鐵道、運河等先づ搬出路の整備を爲して、山西の鐵、石炭に著目せねばなるまい。また治安の進むに從ひ、陝西省の石油、湖南のアンチモニー、鉛、亞鉛及び雲南の錫等に手を延ばす必要があらう。

支那の通商貿易は日支を紐帶とし、逐次第三國との自由貿易に移るであらうが、支那の動脈ともいふべき揚子江航行の實權を我が手に收めることゝ、租界を開放して支那に還元し、白人の根據を無くすることが最も緊要なことである。

支那の教育は從來甚だ不振であり、特に高等教育は歐米人の手中に委するものが多く、彼等の恩惠的民心獲得教育と蔣介石の排日教育の普及とに依り、純眞なる青少年の思想が根强く歪められてあるから統一せる國家的教育の施設普及を圖ると共に、特に東洋道德を基調とし、日滿支一體化の新秩序に基く正純なる教育綱領を確立し、從來の禍根を速かに是正する必要がある。また我が教育指導者の多數が出向いて協力し、日本語の普及に依り我が國を了解せしむると共に、更に多數の留學生を迎へて、從來の如き歐米鸚譯的教育に墮せざる眞の日本教育を施すと共に、上

下敬愛の念を以て好遇することが必要である。實に彼我青年相互の心からの握手疏通こそ東亞百年の紐帶となり根柢となることであらう。

支那の宗教には佛教、道教、回教及基督教が行はれ、蒙古と新疆には佛教の一種である喇嘛教がある。國民の性質が實利主義、卽效現實主義のため一般に宗教は不振である。佛教や道教の寺は到るところにあるも、僧侶は葬式要員に過ぎない。原始的功利宗教である道教が比較的普及してゐる。基督教が有卦の如く見えるのは宣傳手段である授產、救恤、施與等の副業を歡迎するのみである。只回教徒のみは宗教的信念が厚く、團結が鞏固であり他と雜婚せず、交際せず、學校も別なれば、飲食も漢人の店に入らず、豚を食しない。また常に入浴し、漢人の如く不潔でないのが特徵である。從つて漢民族とは互に賤視し輕視してゐる。新疆省の如き回教徒を懷柔しなければ政治が行はれないと言はれて居り、日本人もこの教に著徒意し重視する必要がある。

華僑に就ては前にも述べたが、支那の在外居留人ほどその數が多く、且世界各地殆んど支那人のゐないところはないといふ例は、他國人にはあまり見ないところである。また本國に於ける支那人よりは富裕であり、且文化人の多いこともその特徵である。從つて華僑がその本國支那を政治的にも財政的にも、また文化的にも支配しゐる勢力は侮り難きものがある。支那では從來自國民の海外に出ることを禁じ且卑しめてゐたが、清朝の末頃から華僑の財的勢力を認め、特に孫文が革命を起すため華僑の財的援助に依存し、爾來國民黨の活動とその背後に於ける華僑との關係は見逃すべからざるものとなつた。また華僑は國外にあるため各種の見聞を廣め、その思想は本國にある者より進步的である。從つて本國に於ける議員や代表となつて、政務に參加する者も相當に多く、また鄕土に文化設備を施し學校を建設する者も少くはない。華僑の集團地にも大小の學校を設けて子弟の教養に努めてゐるが、その數は二千四百餘に及んでゐるとのことである。

在外支那人二千萬といふ多數の華僑が出來た所以は、南洋遠征軍中の土著せるもの、易世革命の際前朝の亡命したもの、白人の開拓業に支那人を雇傭しそのまゝ居殘つたもの等の原因もあるが、要は支那國內が人口稠密の上に、天災人禍が續き生活困難のため出稼ぎした者が主で、その成功を聞き傳へた鄕黨が續々と出かけるがためである。華僑の大部分は福建、廣東及び廣西の三省から出かけたもので努力、忍耐、克己及び適應性の强い支那人の特性に依り成功するのであるが、特に南方支那が北方支那人と異なり、頗る慓悍で勇氣があり海外雄飛性に富んでゐることも大なる原因を爲してゐる。華僑の中にも詐僞の常習者や無賴漢や、祕密結社を設けてテロ行爲を爲すものがあり、また阿片吸煙者の多い等の缺點もあるが、大體に於て成功者が多く、且鄕土に

對する愛著心が強いので年々の送金は莫大の額に上り、これに依つて本國の輸入超過が相殺せられるくらゐである。また明末亡命者の血を享ける華僑が「華僑は革命の母なり」との孫文の刺戟を受け、國民黨を援助して清朝を亡したことも當然であれば、爾後國民黨との關係の深いのも自然の成行きであり、國民黨の政策を國際的活動に顯現する力も輕視は出來ない。要は汪精衛の新中央政府が華僑をして速かに蔣政權との腐れ縁を絶ち、新中央政府に鞍替せしむることの如何が、新中央政府の強化に相當大なる影響があるものと見なければならぬ。

以上隣邦中華の國に對し、比較的多數の頁を割いたが、日滿支の一體化を圖り、東亞新秩序を建設することは帝國百年の計であり、彼を知ることが最も重要だからである。最後に對支心得五ケ條を述べて一般讀者の參考に供したい。

一、共存共榮を根本義とすること。

搾取主義は歐米資本主義の遺物であつて、大義を翳す日本が、その糟粕を嘗むるは愚の極である。また彼をして信倚せしめる所以でもない。支那は今や全國上下を擧げて疲勞困憊、混亂荒涼の極にあるから先づ彼等を救濟する必要がある。治安維持のためには兵力を與へ、經濟復興のためには資本を與へ技術を與へ、民衆には安居樂業を與へ購買力を與ふる等、與ふる主義を基調として悠揚迫らず、自ら一段の高きに居て相手の人格を尊重し、これを抱擁するの大度量がなければ到底彼等を綏撫悅服せしめ、共存共榮の實を擧げることが出來ないであらう。

二、獨立を尊重し民族の面目を保持せしめること。

世界被壓迫民族が獨立に對する執著心は、本能的民族思潮であり、支那の如き面子を重んずる民族に於て殊に然りである。

三、人的關係に囚れざること。

個人の因緣關係に拘泥して、支那人の間に親疎好惡の別を生じ、彼等の先天的巧妙なる外交術に弄せられ、或は錯覺に陷つて判斷を誤ることがあり、特に相手の變るに從ひ對策の永續しないことがある。常に一般民衆の福利を基調とする觀念に立脚して、個人的感情に囚れないことが肝要である。また交渉は常に實力者、責任者との直接談判を得策とする。

四、誤れる優越感を捨てると共に卑屈に陷らざること。

自尊心が強く、自己陶醉に耽けり易い支那人は、不良日本人が軍隊や國力を背景に彼等を蔑視し、無暗に優越感を發揮して且不正を働く如きは、彼等の非常に不快とするところである。ま

た親善を穿き違へて卑屈なる態度に出るときは、逆に彼等の増長性を發揮せしめ、手の著けやうに困るであらう。特に日本人が歐米人を崇拜し、彼等に媚態を呈するが如きは忽ち支那人から輕視せられ、事變前の如き事態に逆轉する虞がある。

五、武力の世界的優越を永久に保持すること。

日本は支那に對し先進國ではあるが、その優越せる知識、技能、經濟力は支那の覺醒、建設の進むに從ひ、特に大國なるの故を以て永久に保持することは或は困難かも知れない。しかし日本獨得の武力の優越だけは、如何なることがあるも絶對に保持しなければならない。日本から武力を除くことは手足を捥ぐのと同樣である。他の追隨し得ない日本の特能は武力のみと言ふも過言でない。往時三韓の離反が何に原因したか、以て警戒とすべきである。但しこれからは對支武力のみではなく、彼を支援し或は我に取つて代らんとるする第三國の武力に對して特に必要である。

第三十六夜　不可分の盟邦

滿洲の地は古來北方の蕃族として雄强の民族を生み、蒙古族や土耳古系族と共に、屢〻支那の中原に進出して漢民族を惱まし、或はこれを征服してゐる。我が推古朝時代には高勾麗が起つて滿洲の大部と朝鮮の北半部を領し、隋や唐の遠征を破り、隋はこれがため滅亡の因を爲してゐる。奈良朝時代には渤海國が起り、我が國とも交通したが藤原氏時代に遼がこれに代り、滿洲、北支より內外蒙古、新疆方面にまで勢威を張つたが、我が院政時代に同じく滿洲から起つた金がこれに代り、金が元に亡ぼされてからは暫く振はず、我が江戸幕府創業時代に、淸が起つて明を亡ぼし、僅か數百萬の滿人を以て四億の漢人を統治すること二百數十年に及んだが、その後半に於て白人の南北よりする侵襲に煩はされ、特に滿洲の地に關しては朝鮮問題のため日淸相爭ひ、露國勢力南下のため露淸及び日露の葛藤となり、淸朝の末路甚だ振はず、遂に革命政府のため倒れたことは既に前章に述べた通りである。

爾來滿洲は張父子の治むるところとなつたが、我が國の擁護に依つて起つた張作霖が滿洲を搾取して權力を擴大するに伴ひ、我に離反を始めその子學良に至りては、秕政益〻甚しく馬賊は横行し、官匪は誅求を逞くし、各民族の相剋を來したるのみならず、特に日本勢力の追出し政策を取り、我が國唯一の權益たる滿鐵包圍鐵道計畫を進めて、これを無力たらしめんとするのみならず、居留民や我が軍人の虐殺等暴虐の限りを盡くしたる結果、十萬の人命と二十億の國帑を費し

て得たる我が權益は將に水泡化し、邦人悉く退去の運命に差迫つたとき、昭和六年九月十八日の柳條溝事件勃發を動機として回天の業が成つた。

皇軍の疾風迅雷枯葉を捲くが如き電擊作戰に依り、張軍三十萬は忽ちにして關內に驅逐せられ北滿に張つたソ聯勢力は、倉皇として國外に遁竄してしまつた。こゝに於て日本は國防上の安固を期し、人口問題、經濟問題の解決をこの地に求むると共に、滿洲を安寧秩序の樂土と化し、殷盛の富國と爲さんがため滿洲國の建國に努力し、昭和七年三月一日その實現を見るに至つた。始め清朝の前宣統皇帝を迎へて執政としたが、昭和九年三月一日皇帝に推戴し、年號を康德と改めた。

これがため日本は國際聯盟の猛烈なる反對に會したが、斷乎としてこれを押し切り、遂に聯盟を脫退したのみならず、ソ聯が國境に大兵を集中展開してその隙を窺はんとするに對しては、駐兵を增强して嚴に國境を警備し、また國內の匪賊を掃蕩して新帝國の安泰を確保してゐる。これは建國の始めに締結した日滿議定書の國防協力に依るものであつて、昭和十年　皇帝の日本訪問に依り、日滿の關係及び立國の理想、經國の精神が一層明確に闡明せられた。卽ち滿洲國は日本の正義に信賴し、將來永久に兩國一體不可分の關係を鞏固にし、相提携して東方精神の結晶たる道德の眞義を發揮し、東洋平和の確立と人類の福祉を增進するにある。

滿洲國は建國以來國民の協和一致して、新國家の建設及び發達に努力邁進したのと、盟邦日本が滿洲國の獨立完成とその物的心的建設を圖り、質的量的充實を敢行し、多大の犧牲と肉身的協力の結果、建國旣に八星霜を經由して政治、產業、經濟、文化は勿論、對外關係に於ても國際聯盟を中心とする諸外國の獨立不承認や、東亞を繞る政治的不安を克服しながら、著々として獨立國家の體制を整へ、驚異的發展を遂げつゝあるのみならず、日支事變勃發以來盟邦としての責務を積極的に遂行し、以て一億一心日滿の一體化を最も忠實に顯現してゐる。

抑〻滿洲國は亞細亞大陸の極東部に位し、その領域は獨逸、佛蘭西、英國の本土を合したものに相當し、その面積は百三十萬平方粁を算する大國である。地勢は東に長白山、西に大興安嶺と陰山々脈を控へ、北には小興安嶺が長く延びて、その間に多數の大平原を擁してゐる。滿洲平原は黑遼分水嶺に依つて南北に分れ、遼河は南流して渤海灣に入り、松花江は北流して黑龍江に合してゐる。緯度は日本の東北、北海道と等しいが、大陸的氣候のため冬季は嚴寒で防寒保溫の設備を要する。しかし乾燥爽快で十分日本人の生活に堪へ得る。夏は晝夜に於ける溫度の變化が大きいが、內地よりは凌ぎよい。

住民は古來日本人と語源を同うする滿洲族が主人公であつたが、清末より漢族の移住が盛んとなり、今やその數二千八百萬を算し國民の主力を占め、滿洲族は五百萬足らずで第二位となつてゐる。この外蒙古族五十萬、回族十七萬及び朝鮮人八十萬、日本人五十萬が居り、日本人が中堅的存在として五族共和の實を擧げてゐる。

行政は國務總理大臣が輔弼の責に任じ、治安、民生、司法、產業、經濟、交通の各部大臣を董督し、十八省の地方廳を通じて行はれてゐる。尙ほ國務總理大臣は外交を直宰し、蒙政を掌理してゐるが、有力なる日系官吏が各部門に介在して指導に任じ、基礎の堅實强化に資してゐる。然しその組織、施政の要領は新鮮創業の機を利用して、幾多既成國家の弊習を改め、理想的近代國家の長所を發揮して生氣潑剌たるものがある。

滿洲國の財政は當初一億一千萬圓のものが、今や十七億圓を超えて餘裕綽々たるものがあり、その經濟は統制主義を採り、豐富なる資源を開發して、國內の自給自足は勿論、日本の不足資源を補充せんがため、國防上重要なる產業及び公益事業である交通、通信、鐵鋼、輕金屬、金、石炭、石油、自動車、硫安、曹達、採木等を公營とし、或は特殊會社に經營せしめて一事業一系統に統制し、その他を一般民衆の自由營業に委してゐる。而して統制產業は今や二十數種を算し、特殊會社及び準特殊會社の數は約五十に達し、資本金の總額は二十數億圓と稱せられてゐる。

第三十七夜　滿洲國の產業、交通、教育

產業は農業が主であり、耕地一千四百萬町歩を人口の約八割が耕し、農產品は輸出貿易の七割を占めてゐるが、尙ほ一千八百萬町歩の未耕地を持つてゐる。農產物の主なるものは大豆、高粱及び粟であり、畜產も年と共に盛大に赴いてゐる。森林は全部國有林で、年產八百萬石を產し、鹽は三大物產の一として年產百萬キロトンに及び、化學工業鹽として更に增產に著手中である。

鑛物資源の埋藏は頗る豐富であつて、石炭は二百億キロトン、鐵は三十億キロトン、鉛、亞鉛鑛一千五百萬キロトン、金鑛六十億圓、マグネサイト五十億キロトン、石灰石五十億キロトン、オイルセール七十六億キロトン、砂金五十億キロトン、耐火粘土三億キロトンと稱せられ、尙ほ調査の進むに從ひその數を增大する模樣である。その他銅、石油、タングステン、モリブデン等も續々發見せられつゝある。これらの資源は我が練達堪能の技術と、同國の低廉なる勞働力に依り著々開發せられつゝあるが、尙ほ製鐵業、機械器具工業、化學工業、紡績工業、パルプ工業、輕金屬工業等近代的工業の相貌を呈し、年產額、工場、職工數等逐年累增の盛況にあるが、就中

東邊道に於ける優良鐵鑛及び石炭の發見竝に鴨綠江より引水して琵琶湖の半ばに相當する大貯水池に依る六十萬キロワットといふ巨大なる發電力等は、滿洲工業の將來に期待せらるゝところ頗る大きいものがある。

日本は近來巨大なる重工業國に推移し、滿洲事變以來は一層の進運にあつたが、基礎資源を第三國に依存するの危險が多いので、滿洲國がこれに代つて供給源となるために、昭和十一年から約六十億の資金を以て、產業開發五ケ年計畫に乘出したところ、日本に於ても翌十二年から重要產業生產力擴充計畫を樹て、十四年には更にこれを擴充して、十六年末には日滿支を通じて概ね自給自足の目的を達しやうと鋭意努力中なので、滿洲國も亦修正五ケ年計畫を設立してこれに應ずることゝなつた。

日本の對滿投資は事變前既に約十八億と稱せられたが、今や四十億圓に對し、尙ほ五ケ年計畫遂行のため更に數十億の投資を必要としてゐる。

滿洲國の貿易は建國以來飛躍的好調を續けてゐるが、近來生產擴充資材需用のため大なる入超國となつてゐる。

滿洲國では重要國策として產業開發五ケ年計畫に關聯して、接境地帶に於ける國防力の强化、地方文化發展のため北邊振興に著手し、また醫療、教育、文化の施設等民生の振興を圖り、交通通信の完備、輸送力の增大に努力してゐるが、更に人民總服役制度を布かんがため既に豫備訓練を開始した。

滿洲國の交通、通信は急速に發達し、鐵道は建國當時の四千粁から一萬粁を突破し、年收純益一億圓（十五年度全收入四億七千萬圓）を超過するの盛況である。自動車道路は二萬二千粁に達し、水運は大連を始め營口、安東、壺蘆島の開港の外、黑龍江、松花江、烏蘇里河、遼河、鴨綠江等の河川運航が經營せられ、また鴨綠江の河口に八ケ年九千萬圓計畫の大東港が建設せられる筈である。通信は滿洲電信電話會社に依つて統一普及し、放送をも實施してゐる。

航空路は滿洲航空會社に依つて滿洲國の隅々にまで延長せられ、治安維持及び產業の開發に貢獻するところ多く、寧ろ日本よりも普及してゐる觀がある。昭和十二年には日本航空輸送會社の東京—新京線及び京城—大連線が開設せられ、更に昭和十六年からは日本海を橫斷する日滿直通線に依つて每週二回の往復便があり、兩國の首都は僅か五時間半で結ばれることゝなつた。

滿洲國の敎育は日本と不可分一體の建國敎育を基本とし、初等、中等、高等敎育の體系整ひ、初等敎育は國民義塾、國民學舍、國民學校、優級學校に於て行はれ、校數一萬四千、就學兒童百

四十三萬を算し、推定學齡兒童數の三〇%に當るが、將來は八〇%に達するの見込みがある。中等教育は師道學校、國民高等學校、女子國民高等學校及び職業學校に於て行はれ、校數百八十九生徒數四萬七千である。高等教育は建國大學及びその他の大學にて行はれるが、大陸建設の指導的人材養成を目的とし、諸民族共學を本旨とし日本語を教授用語としてゐる。

在滿日本人は子々孫々に至るまで日本帝國臣民であつて同時に滿洲國人民であるの主旨から、その教育は日本政府に於て取扱ふことゝなり、在滿日本大使館に教務部を置き、初等、中等教育及び一部朝鮮人の初等教育を指導監督せしめてゐるが、その學校數二百五十一、兒童生徒八萬七千人に達してゐる。

滿洲國には日、鮮、滿、漢、蒙、露その他の諸民族が混住し、その教養程度を異にし言語、習慣、風俗を異にし、宗教を異にしてゐるのみならず、多年に亙り抗爭對立して來たものも尠くないので、これら諸民族の協和を圖り共に俱に相携へて、新國家建設の理想に邁進せしめんがため協和會なるものが出來てゐる。

協和會は八紘一宇の我が神勅の精神が、滿洲國に光被し、昭示せられたもので、建國と共に生れ、國家機構として定められた團體である。即ち爲政の精神的母體として、建國精神を無窮に護持し、國民を訓練してその理想を思想的、教化的、政治的に實踐し、以て民意の暢達を圖らんとするにある。その綱領は建國精神を顯揚し、民族協和を實現し、國民生活を向上し、宣德達情を徹底し、國民動員を完成し、以て建國理想の實現、道義世界の創建を期するにあつて、ファシストやナチスの如き一國一黨的存在ではないが、官民一途、全國民がその會員たるべき精神的結合團體である。今やその會員數は百二十萬を超え、分會の數は三千二百餘に達し、その組織網は整然として全國に亙つてゐるが、尙ほ益々擴大しつゝある。

協和會には二十歲以上三十五歲までの優秀會員に對し、一定期間獨得の訓練を施すところの義勇奉公隊があり、また四十萬の少年團を持つてゐる。青年團も漸次組織されつゝあるが、その指導的中心分子の養成のための青年訓練所には、十六歲より十九歲までの青年が、三ヶ月乃至一ヶ年の訓練を受けて居りその終了者は既に三萬に達してゐる。

第三十八夜　滿洲國の開拓

開拓事業は滿洲國重要國策の第一に擧げられてゐるが、これは日本の國策と連環して居り、建國の理想實現のための骨幹工作であると共に、大和民族の大陸に發展する前衞工作である。即ち

滿洲國としては國民の中核となり、民族協和の母體となる日本人の增大は、日本と一體不可分の關係にある國家の强化となり、その開拓は農業國家の國本を培ひ、產業を盛んにし、安居樂業の理想を實現するものである。これを我が立場から論ずるならば日本は大和民族の繁殖、普及、同化に依り二千六百年を費して今日の帝國を造り上げたが、海外への發展は明治になつて漸く北海道、臺灣、朝鮮等僅かに島や半島に成功を見たのみで、未だ大陸に成功するの機運に惠まれなかつた。尤も歷史上の事實としては、外征や交通、交易等に依り屢〻大陸との交涉を持つたが、民族の永久的大規模の定著政策を採らなかつたがため、折角の機會も一時的繁榮に止まり、彼のタイ國に於ける日本村の如く、滄桑の間に朽ち埋れた墓石に依つて微かに往時を偲ぶに過ぎない儚ないものとなつてゐる。ところが奇しくも　神武天皇御東征から二千六百年目に、滿洲國が出現し、無名有實の大陸日本國が出來たことは洵に感慨深きものがあると共に、これが達成のため現在生れ合した吾人同胞の責任たるや頗る大なるものがある。卽ち大陸日本の强化は滿洲國を强化するにあり、滿洲國の强化は我が民族の移住に俟たねばならず、民族の移住は開拓事業に依り實現するのである。

我が民族の滿洲國に移住定著することは、優秀なる人的資源を彼の地に扶植せんがためであつて、開拓に依り民族の繁榮を期すると共に、人的物的資源を現地に於て補充し得る國防上の利益は甚だ大きい。また國家には永き時の經過と共に、盛衰あるを免れ得ないが、多數民族が定著して大陸に於ける中堅民族に永久化した後には、假令本國の保護扶養の及ばない場合があるとも、立派に自存し得るのみならず、時には逆に本國の衰頽を補血回生せしむるの效果をも擧げ得べく彼の蘇我、物部の抗爭時代に日本府が倒れて、半島への發展がそれ切りとなるが如き悔いを再び殘さないことになるであらう。

滿洲から北支、蒙疆に亙り我が民族の定著發展することは、支那四億の民衆に對しても、また西して中央亞細亞に、北面西伯利にまで睨みの利くことゝなり、歷史上、地理上の要域を占めることゝなる。更に我が日本に信賴し、我が民族を中核とすることに依り滿洲國の發展大成することは、現在進行中の支那事變に於ける日本の主張を敎示する實物例證となるわけである。蓋し滿洲國人口の大部分が漢民族である以上、その安寧幸福の狀が同民族の支那に感及せざるを得ないからである。卽ち滿洲國の成育如何は我が對支政策の試金石となり、對支政策の成否如何は援蔣反日の歐米諸國に對し、極東への侵略干涉の手を引かしむるか否かの契機となるからである。日本が八紘一宇の大理想を以て乘出した日滿支一體化の擧國的空前の大事業は、窮極するところ滿

洲國に於ける我が民族の中核的實力を扶植するにあつて、事變進行中に於ける國內勞力の不足等の萬難を排して、國策の向ふ大眼目に努力邁進することが肝要である。

さて滿洲の開拓事業は昭和七年滿洲事變の直後、在鄕軍人より成る第一次開拓團が銃と鍬とを持つて入植し、討匪、建設、農耕にと、血涙を流して惡戰苦鬪の辛酸を嘗め、先驅的役割を果して以來漸次その緒に就き、昭和十一年には二十ケ年百萬戸の大量的開拓民計畫（二十年後の滿洲國人口を四千萬と推定し、その一割五百萬の日本人を入れることゝなる）を樹立するに至り、翌年より實施に著手したのみならず、昭和十三年には滿蒙開拓青少年義勇軍が組織せられ、我が同胞の滿洲進出は愈〻その基礎を强化し、今や一萬五千戸、三萬二千有餘の開拓民と三萬の青少年義勇軍とを有し、尙ほ逐年增加するの盛況で本年の入植豫定は一萬九千五百戸、青年訓練生七千五百人に及んでゐる。昨年四月末現在の入植者總計七萬四千二百六十一人、內譯成人開拓民三萬三千五十六人、集合開拓民九千七百五十人、訓練生二萬。

我が開拓民のためには北滿の沃野二千萬町歩が待つて居り、既植民には一戸當り耕地六町歩乃至十町歩を與へられ、牛馬を使用して中流以上の農業生活を行ひ、冬季には樹木伐採等の副業があり・一戸平均每年五百圓乃至千圓の貯蓄を爲し、內地より妻女を呼びて、その仲は頗る麗はしく兒女の出生亦甚だ多く、嬉々として團欒の生活を營める有樣は、駐屯兵が羨望の的であることは著者が嘗て旅團長の頃警備司令官として、第一次、第二次、第六次及び森林移民、緬羊移民地區の治安及び行政指導に任じて親しく目擊したところであり、更に後續開拓民及び青少年義勇軍のため大規模の土地買收に協力すると共に氣候、風土、交通等調査研究の結果、鹽土の翁にはあらざるも、北滿の地は實に我が民族の往いて繁榮すべきところであることを心から推奬したいのである。

各部落には神社あり寺院あり病院、學校は固より、生產品の加工、販賣及び味噌醬油等日常用品の製造並に購買組合の組織は完備し、緬羊の如きは共同管理して粗製毛織物を產して居り、病人は頗る少く病院は產院に轉業せるの觀があり、匪賊の如きは旣に影を潛めて往時の語り草となつて居り、第一次、第二次開拓部落の如きは電燈までついてゐる。ある新聞の一口欄に、電燈がついては產兒出產率に影響するであらうと皮肉れるくらゐ、人口の增殖力が大であるのは氣候、風土及び勞働が好適し、衣食住が容易であると共に、內地の如き小うるさき傳統や因襲に囚れることなく、廣大の地に伸び〳〵として生活し得るからであらう。またある識者は、開拓民のあまりに急に富裕になることは、富裕のための弊害を生じはしないであらうかと案ずるくらゐ、前途は有望多幸である。しかし內地出發までの訓練及び開拓に著手して二、三年の苦勞は當然である

が、これとても普通勤勞の程度である上に絶大なる國家の保護及び補助が、物心兩方面に惠まれて居る。例へば渡航費その他のため一戸當り五百圓以上の補助があり、五町歩以上の耕地を與へられるが如きこれである。開拓團は第四次まで府縣聯合の形であつたが、第五次からは縣單位となり、最近は內地の分村、分鄕計畫の進展に伴ひ、次第に村單位、鄕單位の開拓團が殖え、三十戸以上百戸程度を以て入植し得ることゝなつた。また青少年義勇軍は高等小學校在校中の小國民を對象とし、郡單位に六十名の小隊編成として繰出して居り、尙ほ青年團、青年學校生徒を以て郡毎に編成して繰出すものも多く、これらは將來頗る有望である。その他開拓民に良き配偶者を與へんがため女子に對する拓殖指導まで行はれてゐる。

これを要するに開拓事業を離れて滿洲國なしといふくらゐ重要であり、北支には既に二十萬の同胞があり、尙ほ續々と渡りつゝあるが、滿洲、北支に亙る我が民族の定著を圖り、その繁榮を策することは我が國百年否千年、萬年の計であり、擧國大犧牲を拂ひつゝある支那事變も、有終の美を收めるの根源がこの遠大なる國策に存することを忘れてはならない。

第三十九夜　北隣の地

東部シベリア地方には、古代に於て既に亞細亞諸民族が原始生活をしてゐたが、その後蒙古方面からは土耳古人が、滿洲からはツングース人が來てこれに代り、更に成吉思汗が一時支配したこともあつたが、我が織豐時代から露西亞の東方侵略が始まり、德川時代の由井正雪が亂を起した頃には、黑龍江の沿岸に達し、更に沿海州やカムチヤツカに進出して來たが、その經營は流罪人に依つて植民開拓を行ひ、また農奴の脫走や、農奴解放後の移住奬勵に依つたがため植民政策殊に經濟方面に於ては成功を見ないで、第一次歐洲戰爭中に於ける革命となつた。

革命當初には我が國を始め英、米、佛、伊等の列國軍が、チエツコ救援のためこの地に進駐したが、やがてこれらが撤兵し、革命政府が固まると共にソ聯の政令が行屆くことゝなり、昭和元年當時の新憲法に依つて、全西伯利を極東地方、西部シベリア地方、クラスノヤルスク地方、ヤクーツク自治共和國、ブリアト・モンゴリール自治共和國及び東部シベリア州の五行政區に分けてゐる。

極東地方とは西伯利の最東部に位し、カムチヤツカ、北樺太を含み、滿洲國と境を接し、その西隣には北氷洋に面してゐるヤクーツク自治共和國があり、西南隣には東部シベリアがある。その政治中心はハバロフスクである。ソ聯の威令が强化するに從ひ、工業、運輸、農業、教育等廣

汎なる社會主義建設が著々と實現し、最近數年間に完全に舊來の面目を一新し、偉大なる躍進を遂げるに至つた。特に軍備の充實、施設に至つては非常に力瘤を入れ、日、滿兩國に對する大なる脅威となつて居り、その產業、運輸の躍進も結局は、この軍事目的に胚胎してゐるものと思はれる。

森林地域は頗る廣大であつて、樹林の豐富と樹種の多樣なことについては世界有數である。殊に沿海州の木材は日本海を以て連なる我が國にとり利用の途最も多く、邦人の伐採するものも尠くはなかつたが、スターリン政府となつて以來、全く手を引くことゝなつた。

北部沿岸地方の魚族に富んでゐることも世界に有名である。日本人は明治四十年のポーツマス條約に依つて露人と平等の漁業權を得、我が水產業に多大の貢獻を爲してゐるが、滿洲事變以來ソ聯の壓迫が加はり、その進展を見ないのみならず、現狀維持すら困難の狀況にある。

鑛物は諸所に有望なる金鑛があり、鐵、石炭も亦豐富である。我が國は大正九年尼港事件の代償として、大正十四年の北京條約に依り、北樺太に於ける石炭及び石油の利權を獲得した。石油の埋藏量は三億瓲以上と言はれて居り、採油權は昭和元年から四十五ケ年間、東海岸二千四百ヘクタールの廣さに亙るもので、ソ聯のものと碁盤の目のやうに交錯して居り、三十萬瓲の採油を得るまでに至つたが、昭和十一年の日獨防共協定成立以來ソ聯の壓迫甚しく、翌十二年以來殆ど事業を中止するの已むなきに至つた。石炭は製鐵用骸炭の原料炭として、他に類例のない程優秀な炭質を有し每年約二十萬瓲を內地に供給してゐたが、これ亦支那事變勃發以來、ソ聯の壓迫甚しく採炭は全く不能となつてしまつた。我が國としてはこの種重要資源の最も必要とする時に當り、洵に遺憾の次第である。

工業は昭和七年以來、黑龍江沿岸のハバロフスクとニコライエフスクとの中間コムソモリスクに大中心を置き、各地に計畫的大發展を遂げつゝある。

極東鐵道（有名な西伯利鐵道のこと）は既に複線となつたのみならず、更に軍事上及び經濟開發のためバム鐵道の敷設に著手し、今や部分、部分の開通を見るに至つたやうである。この鐵道はイルクーツクの西方タイシエットを起點とし、バイカル湖の北方を通り、概ね極東鐵道に平行して、コムソモリスクに通じ、日本海に面するソフガワニ港を終點とするものである。河川交通としては黑龍江が大動脈を爲して居り、海上交通としては八年前から北氷洋通航に依つて、歐露との連絡が出來たことに大なる意義を持つてゐる。定期航空もモスクワ、浦鹽間の八千粁を始め、ハバロフスク—オホーツク—ペテロパウロウスク線、ハバロフスク—アレキサンドロフスク

線等一萬粁以上に及び、百臺からの航空機を使用してゐる。

教育は著者の西伯利從軍當時は殆ど零とも稱すべき狀態で、初等學校の兒童數五萬と言はれてゐたが、大人で姓名の書けるものは十人に一人か二人で、受領證に署名さすため代人を別に設けなければならなかつたが、その後大いに普及しつゝある模樣で、昭和十年には初等教育の兒童二十七萬人、中等教育の生徒十一萬五千人に上つてゐる。

氣候は寒流と海岸諸山脈の影響で、嚴寒酷烈、人の住めないところも少くない。これが開拓の遲れた所以でもある。七月の平均氣溫は北部地方で二度、南部地方で二十度であり、一月の平均氣溫は東部で零下十四度、西部で零下二十度乃至三十度である。大體浦鹽港附近から南部烏蘇里地方は北朝鮮と似て居り、ハバロフスク以南ニコリスク平野は北滿に似て居り、大いに繁榮すべき要素を持つてゐる。

面積は廣大で二百三十三萬五千平方粁を算し、地勢は海岸線に山脈が連なつてゐるため複雜である。平野は黑龍江、烏蘇里河の沿岸に擴がつてゐる。住民には三十六の異民族から成つて居り入口は昭和九年調べで百九十七萬五千人を算し、都市としては浦鹽十九萬、ハバロフスク十萬二千、ブラゴエチエンスク六萬三千五百の人口である。

極東地方の兵備は從來步兵七師團、騎兵二師團、飛行一旅團で兵員十萬に滿たなかつたが、滿洲事變以來急激に增兵し、尙ほ逐次擴充强化しつゝあるの狀況である。卽ち現在の兵力は三十師團約五十萬の外飛行機二千、戰車千八百、潛水艦百を算し、尙ほ外蒙に騎兵約十師團、飛行機、戰車を含む數ケ師團を持つてゐる。極東地方のソ聯軍は赤軍、赤海軍、內務人民委員部軍隊の三種に大別し、その主體たる赤軍は、更に司令部をウオシロフに置く獨立第一赤旗軍、同ハバロフスクに置く獨立第二赤旗軍及びチタに置くザバイカル軍に區分せられて居り、戰時態勢を以て戰略展開を終り、滿ソ國境には長大なる線に亙り數重のトーチカ陣地を構築し、尙ほ要所には强固なる地下陣地を構築し、以て日滿軍と近距離を隔てゝ對陣し、虛々實々彼我の小紛爭は絕ゆることなく、時には張鼓峰やノモンハンの如き大衝突に擴大することがある。

これを要するに西伯利極東地方は、一衣帶水を以て日本本土と相對し、朝鮮、樺太に於て接壤せるのみならず盟邦滿洲國とは長大なる國境線を持ち、その魚族、森林、鑛物及び石炭、石油等豐富なる資源は我が國と經濟上密接なる關係を結ぶべき天與の間柄であるべきに拘らず、ソ聯政府はロマノフ王朝二百年に亙る政策と、傳統の民族的感情とを繼承して、東亞經營の志强く、國力の充實と共に益〻その鋭鋒を强化し、通商經濟上には堅く門戶を閉鎖するのみならず、我が既

得權をも蹂躙しつゝあり。機を見て武力解決に出でんがため物的、人的對日戰爭準備の完成に努めて居り、我が國に取りては寔に物騷な地方であり、通商經濟は愚か、國防上眞劍なる態度を以て臨まなければならぬところである。

第四十夜　愛弟の國

タイ王國のことを外國人は一般にシヤムと呼んでゐる。シヤム人の祖先は南支那一帶に擴がつてゐたタイ族である。二千年程前から漢民族が南下し漸次壓迫を加へたので、雲南方面に移住を始め、更に一部は西南方に、他の一部は東南方に移動したが、後者が異民族と混血して比較的高度の文明を保持してゐた。我が飛鳥、白鳳時代にプラ・ルアンといふ英傑が出て、バンコックの北方二百哩の地に、スコータイ王國を建設したのがタイ國で始めである。しかし正確なる文獻を持つてゐない。

我が吉野朝時代にプラ・ラーマ・テイボディーが出て始めてシヤムを統一し、都をメナム河畔のアユチヤに奠めたのを以てタイ建國の肇めとしてゐる。その後內憂外患の絕ゆることなく、王朝の興廢すること三度に及んだが、彼の山田長政が王位繼承問題で國內が紛糾し騷然としてゐるときに新王のプラサツトンを輔けて國內を平定し、大いに重用せられたのはこの時代である。この王朝は約四百年續いたが、北方からビルマの侵略を受けて亡び、今から百五十八年前に、チヤオ・ピヤー・チヤクリーが國內を平定して王位に卽き、バンコックに都を置いたのが、現タイ王朝の始めである。

その後佛蘭西は印度支那を占領して東方からシヤムを侵し、英國は印度を領有してビルマに勢力を扶植し、その餘力を驅つてシヤムの西境を壓迫し、明治二十六年にはメコン河以東の地を佛蘭西に割讓し、明治四十二年には南部國境地帶のケランタン、トレンガヌ等の數州を英國に奪はれ、資源の豐富な東西兩地を失つてしまつた。斯くてタイ國は前國王に至る七世百五十年を君主專制でやつて來たが、昭和七年に人民黨の革命が起つて立憲君主制となり、王子のアナンダ・マヒドールが七歲で第八代の國王となられた。この幼少の國王は現在スイスに留學中なので、前國王の甥アディトヤ殿下を首座とする攝政會議に依つて王權を代行してゐる。國王は世襲であるが、主權は國民に屬し、三權分立主義が明確に制度化されてゐる。

外交は永らく英佛兩勢力を互に牽制せしめることに依つて、漸く今日あるを得たが、革命以來は日本と結んで英佛勢力を排擊せんとする、國家主義的外交政策を巧みに採用してゐるが、英佛

の政治的經濟的潜勢力は牢固として容易に拔き難きものがある。

日本とシヤムとの關係は倭寇の海外活躍から始まり、江戸幕府創業時代には山田長政のことがあり、その後も使節の來朝は屢〻であつて、兩國の關係は相當古い歴史を持つて居り、往時に於ける日本人町の遺蹟は今でも葦や竹林の中に殘つてゐる。明治以降は彼我の交通益〻頻繁に行はれ、明治三十年には我が公使館の開設を見、その翌年日暹修好通商航海條約が結ばれた。大正十四年には通商條約が改正せられて、日本人は國内居住と土地所有の自由を得、兩國の親善關係は一層確立を見るに至つた。その後の日本との提携政策は、昭和八年滿洲事變に關する國際聯盟總會に於て全世界五十數ケ國中タイ國のみが、棄權を以て日本に好意を表したことに依つても明かである。近來は陸海軍將校團の日本留學、軍艦の日本注文、議員使節、參謀長等知名の士の訪日等があり、日本からは技術家や少年團代表、航空使節派遣等同國の經濟的文化的發達に援助を與へてゐる。

國防には徴兵制を採用し、編制裝備の近代化、艦船の新造充實を圖り、青年訓練を行ひ國防思想の普及に努めてゐるが、その陸軍兵力は步兵二十一大隊を基幹としたものであり、海軍は沿岸防備艦四隻の外小艦艇約三十隻を有する微弱なものである。またメナム河口パクナムには要塞がある。

タイ國は多年英佛の勢力下に於て、政治的經濟的半植民地的地位にあつたがため、近代的資本主義經濟の發達が遲れ、昭和七年の革命から漸く獨立國家としての第一步を踏み出したが、經濟上にはまだ資本や技術上に充實を缺き、單に米の生產に依存してゐる狀態である。卽ち全職業人口の八三%が農業に從事し、米田三千二百萬町步から年產五百萬噸を收穫してゐるが、經營の幼稚なるがため單位面積當りは日本の三分の一に過ぎない。また可耕地の大部分が未開の原野として放置されてゐる。畜產業は農業に關聯して盛んであり、牛馬は豐富であるが特に水牛五百萬頭、象一萬頭などはこの國の名物である。北部は大密林でチーク材を產出する。鑛物の埋藏量は豐富であり、またその種類も多いが、錫の外は未だ十分なる開發が行はれてゐない。しかしてこれら資源の大部分は英國資本に依つて統制されてゐる。漁業は幼稚な漁獲法ではあるが、水產は重要產業の一つである。

交通は河川の利用が盛んのため、道路の發達は遲れてゐるが、鐵道は廣く敷設せられ二千哩に及んでゐる。交通上この國の特筆すべきことは、歐洲各國から極東に伸びる航空路の要點となつてゐることで、その主なるものを擧げると、英國からのものはロンドン―バンコック―シドニー

線及びバンコック—香港線があり、佛蘭西からはパリ—バンコック—香港線、和蘭からはアムステルダム—バンコック—バタヴィア線及びバタヴィア—シドニー線がある。日本からも定期航空路がこの國を終點として開け、東西空路の中繼所となつてゐる。

社會上の特權階級は王族を中心とする貴族が最上層を占め、その勢力は牢固として拔くべからざるものがある。貴族の稱號は六等に分れて居り、主として國家に勳功のあつた軍人、官吏から成つてゐる。貴族の次ぎに位するものも亦軍人、官吏であつて、官尊民卑の思想が強い。その他國民の大多數は農民であつて、粗衣を纏ひ陋屋に住み、跣足の生活をして居り、中流階級のないのがこの國の特徴である。またタイ人は商業に興味を持たないがため、華僑が經濟上の實權を握つてゐる。在留華僑の數は二百五十萬を算し、全人口の二割弱を占めてゐるが、孫文以來國民黨に資金を獻じ、そのお蔭を以て故郷に錦を飾る風習があり、支那事變以來國民黨の懐柔策動に依つて、財政的には一層蔣政權を援助する一方抗日運動が盛んとなり、彼等の策動に應じないものは、祕密結社を設けテロ手段を用ゆるに至つたので、タイ國政府は一昨夏より不良華僑の彈壓に著手し、逮捕または國外に放逐せられたるものは數千に及んでゐるやうであり、銀行、新聞及び學校等にも相當彈壓の手が伸びてゐるやうである。しかしタイ國に於ける華僑の勢力を輕視することは出來ない。

衞生狀態は氣候の惡い熱帶圏にあるのと、人智の進まないため甚だ惡い。毎年一萬内外のコレラ患者を出し、ペストも年々發生してゐる。

宗教は國民皆僧の佛教國であつて、國王は佛教最高の權威者であり、一萬七千四百の佛寺と十有五萬の僧侶を有し、國民の宗教心は頗る厚い。暦も皇紀に百十七年少い佛暦を使用し、四月一日から翌年の三月末日までを一年としてゐる。言語は支那語に似たシヤム語を使用し、上層階級には英語が通じる。

この國の地勢は北方と東西の兩國境地方は、山嶽重疊の高原地帶であり、南下するに從つて低くなり、メナム河が大動脈となるところのシヤム平原を爲してゐる。その他東には流域百數十哩のバンパコン河が流れ、西に同じく二十數哩のメクロン河が走り、共にシヤム灣に注いで交通、産業上に多大の期待がかけられてゐる。

氣候は熱帶地のことゝて乾、雨の二季に區分せられ、乾季は十一月から四月まで、雨季は五月から十月までゝある。乾季は晴天續きで、殆んど雨を見ない。十二月、一月は一年中最も惠まれた季節で、平均氣溫は華氏七十五度位である。四月、五月は酷暑季節で、平均氣溫は九十三度に

達する。雨季に入ると最初の程は雨量も少いが、九月頃からは毎日豪雨が數回も訪れ、酷熱を洗ひ去るので割合に凌ぎ易い。

面積は五十一萬八千平方粁で、日本內地と臺灣との面積に匹敵するが、全土の約半部はまだ測量も出來てゐないとのことである。人口は昭和十二年調べで千四百四十六萬を算し、人口密度は稀薄であるが、最近七年間に二百九十五萬といふ著しい增加率を持つてゐる。日本人は僅か四百人しかゐない。バンコックがこの國の首府であつて、人口は百萬近くメナム河に臨む貿易港でもある。北部國境には人口五萬のチエンマイがあり、南部海港に人口一萬のシンゴラがあり、いづれも南、北兩地方の經濟中心を爲してゐる。この外歷史的、宗教的都市としての古都が多數散在してゐる。

これを要するにタイ國は南洋に於ける唯一の獨立國であり、親日政策に依り白人の壓迫から逃れんとする東洋民族共有の思想から發足して居り、支那、滿洲に次いで日本の大なる關心を持つべき國である。特に今次事變に依り、南支に根據を固め得た日本としては、南洋發展政策に伴ふ政治上、經濟上、軍事上に於けるタイ國との關係は、更に密實を加へねばならぬ必然の運命にある。また屢〻國際的話題に上るビルマ境のクラ運河問題の如きも、將來交通上、軍事上更に重要さを增すことであらう。

第四十一夜　佛領印度支那

佛領印度とは昔の安南國のことである。往古は支那の版圖であつたが、千年程前にその外藩となつて以來、幾多の王朝が或は興り或は亡びた。佛蘭西が安南に侵略を始めたのは、今から百五十年程前からであつて、現王朝は二回も戰端を開いて抵抗したが遂に力及ばず、明治十七年降伏してその保護國となつた。しかし佛蘭西は益〻侵略を逞くして、明治二十六年、同三十七年、四十年と三回に亙り領土を擴張して今日に至つた次第である。

佛領印度支那は佛蘭西の直轄植民地である交趾支那と四つの保護領から成つてゐる。保護領とはトンキン、安南、カンボジヤ、ラオスのことで、バオ・ダイが安南の現國王であり、ミソワスモニヴオンがカンボジヤの現國王である。ラオスの北部はルアン・プラバン王國で南部は佛蘭西の直轄である。これらを印度支那聯邦と稱し大統領の任命する總督に依つて統治せられてゐる。また支那にある租借地の廣州灣もその管轄下に入つてゐる。首府は以前サイゴンにあつたが、明治三十五年以來現在のハノイに移つた。

佛領印度支那は、北は支那の雲南、廣西及び廣東の三省に接し、西はタイ國及び英領ビルマと境し、東から南へかけて南支那海に面して居り、以前から南支那と密接な關係にあるが、支那事變以來日本の勢力が南支に延びるに及んで、日本との間にも政治上、經濟上及び軍事上複雜微妙な關係を持つやうになつた。

佛蘭西の統治方針は英國や和蘭と異なり、徹頭徹尾抑壓干渉の政治をやつてゐる。この地方は最も天然の資源に惠まれ、佛蘭西の最大寶庫と言はれるくらゐであつて、その開發には大事を取り全くの鎖國主義であつて外國勢力の入ることを極端に嫌つてゐる。土人の利益を無視し外國資本や外國製品を排斥してゐるので、日本としては通商上何等の保證もなく、日本製品は關稅上最劣等の待遇を受けてゐる。

佛領印度を經濟的に見ると三大產業地區に分つことが出來る。卽ち一は交趾支那、カムボジヤ、南ラオス、ヴアレラ岬及び安南南部を含むサイゴン地方であつて、住民の殆んど全部が農業に從事し、世界最大の米產地である。二はトンキン及び安南北部を含むハイフオン地方で、農業、工業及び鑛業が盛んである。三は中央安南で肉桂、砂糖、茶を主生產物としてゐる。全般に見て米が主要なる輸出品で、昭和十一年には七十六萬噸に上つてゐる。その他ゴム、魚類、石炭、胡椒、牛、皮革、亞鉛、錫などの輸出品があり、輸入品の主なるものは織物、金屬器具、石油、自動車等である。

道路は一萬七千哩、鐵道は二千百哩に達してゐるが、面積の割合には鐵道の發達が不十分のため自動車や河川に依つて交通してゐる。またトンキン地方は運河が相當に發達してゐる。

人口二千三百萬の內支配民族たる佛蘭西人は一萬の軍人を加へて四萬餘に過ぎない。土著人としては安南人千六百萬、カンボジヤ人二百九十萬、インド・ネシア人百萬の外、言語風俗を異にする多數種族を包擁して居り、尙ほ商業を營む在留支那人が三十三萬三千人もゐる。安南人は最も團結が强いので佛蘭西政權はこれに苛酷な彈壓を加へてゐるが、安南の獨立運動は執拗に繰返され、大正三年第一次歐洲大戰の機會にも叛亂を起したが失敗に終つた。しかし昭和五年以來この運動は可なり强く現はれ、佛官憲を惱ましてゐる。

宗教は安南人の上層階級は儒教の感化が濃厚であり、道教の影響も强いが、一般の安南人は死者崇敬の風が盛んでまた自然崇拜の念も强い。特に虎の崇拜が最も廣く行はれてゐるなど珍しいことである。カンボジヤ人は佛教が主で、男子は學校卒業後三ケ月は僧侶となつて修業しなければならぬ。

面積は七十三萬七千平方粁であつて、地勢は雲南山系の延長が南下して、トンキンの高地ラオス山地の大部分を構成して居り、各分派山脈との間に裂谷があり、平野は海に向ひ三角洲を成し沼澤に富んでゐる。メコン河が大動脈を成しカンボジヤ平野と交趾支那平野とを養つてゐる。

氣候は概して高溫であるが、海岸地帶と內地高原とに依り、また南北に依つて各地の氣候に可なりの變化があり、濕度は非常に高い。

首府のハノイは立派な近代都市で、人口十四萬二千、小巴里の稱がある。交趾支那の首都サイゴンは人口十一萬一千、佛蘭西東洋艦隊の根據地であると共に印度支那第一の商港である。

これを要するに、佛蘭西は支那事變以來英國と共に援蔣政策を取り、ハイフオン經由の對蔣軍需品輸送をやり、またカムラン灣に軍港を設け西沙島の領有を宣言するなど、頗る神經質であつたが、第二次歐洲戰爭が始まつてからは消極政策に變り、英國への追隨外交を念とし、日本との間に事勿れ主義を取つてゐる。事變中に蔣政權と國境から南寧に至る佛支鐵道の借款に應じ、二ケ年計畫の下に鐵道用材一億二千萬フラン、現銀三千萬フランを與へて工事に著手したやうであつたが、皇軍の南寧占領に依つて水泡に歸してしまつた。歐洲戰爭の結果如何に依つては英國と共に捲土重來、この領土を根據地として日支兩國に對しどんな策動が行はれるかも知れない。我が國としては大なる關心を以てこれが對策を準備しなければならぬ。假令然らずとも南支に足場を得た我が國としては、南洋發展上眼の上の瘤として大いに重視すべき地方である。

第四十二夜　英領ビルマ及びマレイ

ビルマは八百八十六年前に王國となつたが、爾來元、明、清の各朝から遠征せられ、その封冊を受けてゐた。近世になつて英國の侵略を受け、江戸時代の末期から明治十八年に亙り三回の抗英戰爭をやつたが、遂に力盡きて英領印度の一省となり昭和十二年英國の直轄植民地となつた。首府はラングーン（人口四十萬）にあるが、夏季はマイミョーに移ることになつてゐる。

千四百萬の人口中一千萬がビルマ人である。ビルマ人は佛敎の信仰が厚く、男子は一生に一度必ず僧侶となり僧院に入る習慣がある。文化が進まないので、凡ての社會問題は五萬人からゐる僧侶が關與してゐる。

貿易は輸出超過三億ルピーに達する資源豐富の地でありながら、英國の搾取政策に依り住民は貧苦のドン底生活を送つてゐる。その上にビルマ人の怠惰なる習慣につけ入つて、印度人の出稼人が多數入り込み、一層ビルマ人を貧弱ならしめてゐる。

ビルマ人はタイ族の一部であつて、對英反抗心がある上に對印感情も面白くないので、昭和十三年、十四年と二度も反英反印の暴動を起したが、その都度彈壓せられた。しかしその反抗氣勢は容易に止みさうにもない。

ビルマの面積は六十八萬方粁で、東南はシヤム及び佛領印度のラオスに接し、東北は支那の雲南、西康省に境し、西南及び南はベンガル灣及びマルタバン灣となつてゐる。

これを要するに、英國が援蔣政策の根據地として賴んだ上海や香港、その他支那沿岸の要地を悉く皇軍に抑へられて以來は、重慶政府に對する唯一の補給路としてビルマの重要性が登場して來たが、長距離の山地道路を通過せねばならぬので、その補給力は微々たるものゝやうである。しかし埋藏資源に富む雲南には早くから著目せることゝて、ビルマを根據としてこの方面への經濟的進出は、政治的進出と相俟つて、將來に物を言ふことであらう。

英領マレイはマレイ半島の南部と若干の島嶼から成つて居り、英國がこゝに勢力を扶植したのは百二十一年前にジョホール國王と條約を結んで、シンガポールの地を得たことから始まつてゐる。爾來シンガポールを英國の極東發展の根據地としてその經營に努力し、機會ある毎にその近隣に勢力を扶植して、遂に今日の英領マレイを建設するに至つたものである。

英領マレイは行政上海峽植民地、マレイ聯邦及びマレイ非聯邦の三政治區に分けられてゐる。海峽植民地は英本國の直轄であつて、シンガポール、マラッカ、ピナン及びラブアン島の四植民地がこれに屬し、マレイ聯邦はペラク、セランゴル、ネグリ・セムビラン、パハンの四土侯國が海峽植民地總督の下に聯邦を組織してゐる。非聯邦とは、この聯邦に參加しないジョホール、ケダー、ペルリス、ケランタン、トレンガヌーの五土侯國のことで、國內統治には英人顧問が參與してゐる。

海峽植民地はシンガポール及びピナンの二大開港都市が主要構成要素となつて居り、特に前者は英國の極東に於ける經濟的、政治的及び軍事的根據地であると同時に、南洋商權の覇を握るところの華僑の中心地であり根據地でもある。この地方は英國が多年建設經營に努力した甲斐があつて、南洋各地の中最も進步した土地である。就中シンガポール(人口四十五萬)マラッカ(人口四萬)、ピナン(人口十五萬)等は近代文明都市の體裁を具備してゐる。

氣候は殆んど赤道直下にあるため酷暑ではあるが、海洋に突出してゐるがため常に涼風が吹きまた驟雨が多いので割合に凌ぎ易い。また雨量は世界最大地の一つである。衞生狀態はよくないが、特に風土病のマラリヤで倒れるものが全死亡者の半數を占めてゐる。

面積は千五百方哩、人口は千百萬人を算し、一平方哩七百二十七人といふ高密度である。住民は世界の人種博覽會と言はれるくらゐ種々雜多であるが、支那人が最も多く七割を占めてゐる。その他マレイ人、印度人、ビルマ人が多く、白人は僅か一萬四千人である。

マレイ聯邦は英領マレイの中央部を占め、全土熱帶植物が繁茂し無限の天然資源を包藏し、將來を期待されてゐるが未だ資本及び勞働者の供給が十分でなく、開墾地は極めて僅少である。しかしゴム園の發達は著しく世界第一のゴム製產地で、世界全需要量の約五割を占めてゐる。鑛物資源も豐富で就中錫鑛が有名である。

聯邦の各邦は一種の酋長國で主權は土侯に屬し、非聯邦の各邦と同樣住民は土侯の絕對的支配下にある。併し實際政治は英帝國の搾取を受けると共に、經濟上華僑の制壓下にある。面積は四ケ國合計で二萬八千方哩、人口百九十六萬を算し、一方哩七十二人の密度である。住民中支那人が最も多く、マレイ人がこれに次ぎ人口の三分の一以上を占めてゐる。

マレイ非聯邦の五ケ國の面積は二萬二千方哩、百七十四萬の人口を有し、マレイ人、支那人が主で、印度人がこれに次いでゐる。文化の程度は聯邦諸邦より更に遲れてゐるが、ジョホールのゴム、トレンガヌーの鐵鑛は有名であり、我が國にも多大の鑛鐵を輸入してゐる。

之を要するに、英國は大正十二年以來シンガポール軍港の强化に著手してゐたが、滿洲事變以來日本の大陸進展に伴ひ、自國の極東權益に影響することを虞れ更にこれが强化を急いだが、既に豫定の計畫を完成し香港と共に六十一隻十五萬噸に上る東洋艦隊の根據地としたのみならず、莫大なる費用を投じて飛行隊の基地をも完成し、その大軍港は東洋のジブラルタルと呼ばれてゐる。支那事變以來香港の價値が低下すると共に、シンガポールの重要性は增大し、特に英國が米國海軍と呼應して將來東洋に事を構へんとするとき、この軍港の價値は頗る大である。

第四十三夜　印度

印度は五千年の歷史を有し、世界三大文化發祥地の一つである。往古はチベット・ビルマ族、コラリヤ族及びドラヴィダ族が住んでゐたが、四千年程前にアリアン人が侵入して支配民族となり、先住民を賤民階級に落してしまつた。その後幾多の政治的、社會的、宗教的變化があつたが四百四十年程前から白人の侵略が始まり、我が關ケ原の戰頃から英國が次第にその勢力を扶植し約二百二十年を費して全印度を平定し、明治十年には現在の印度帝國が成立して、ヴイクトリア女皇が印度女帝を兼ぬることになつた。

印度は面積千五百萬方哩卽ち日本全土に約七倍する領域を占め、直轄領である十一州四地方の英領印度と、皇帝直屬の大小六百有餘を算する土侯諸國から成つてゐる。土侯諸國の文化程度は千差萬別であるが、英國の政策が能く大綱を握つて深く內政に干涉しないがため、土侯は大體に於て英國を德としてゐるが、人口の六割八分を占める印度敎徒は反英思想が極めて强く、人口の二割二分を占める回敎徒も亦反英に傾いてゐる。

反英の原因は、日露戰爭以來東洋人の覺醒と英國搾取の桎梏から免れんがためであるが、これを激甚ならしめた動機は、第一次歐洲大戰に際し百二十萬の出兵と三十億圓の軍費を負擔した代償として、完全なる自治權を與へられる如く豫約したところ、戰後その豫約が實現しないことに發してゐる。戰後印度敎徒及び一部の回敎徒から成つてゐる國民會議黨が、ガンヂーを最長老とし、稍〻過激主義のボースを指導者として、不服從運動を起し老帝國を手古摺らしてゐる。その手段は同盟罷業、英國製品の不買、印度人の警官及び兵士をして英國に對する忠誠心を失はしめる如き、消極的な精神的平和的方法に依り武力抗爭をしないがため、總督側としても民衆の興奮を虞れて武力鎭壓も出來ず弱り拔いてゐるやうである。この運動の火の手を擧げたのは大正八年から同十年までと、昭和五年から同九年に亙る間であつたが、今次の歐洲戰爭を機會に三回目の反英抗爭が擡頭して來た。英國政府では徹底的彈壓を聲明してゐるが、印度は英國の生命線とまで言はれるくらゐ重要の地とて、大英帝國の興廢を賭しての戰爭指導と共に、對印政策には非常の苦心を拂ふことであらう。これがため前大戰時のやうに大兵を歐洲に送ることは愚か、平時駐屯三十萬の軍隊からも治安維持上あまり多くを引揚げ得ないのではないか。

中央政府の財源は關稅が歲入總額の四割を占め、所得稅がその次ぎで、あらゆる所得に賦課してゐる。鹽稅の如きは八千萬ルピーの高率で、酒稅と共に國民生活を脅かすものであると不服從運動の目標となつてゐる。歲出の著しいものは國防費で全歲出の四割に當り、國債費一億四十萬ルピー、行政費一億ルピーがこれに次いでゐる。國債費は英本國への支拂が大部を占め、行政費も英人官吏の俸給、年金が大半を占め、文化的支出は極めて少額である。凡そこれらが印度搾取の對象となつてゐる。

州財政に於ても土地稅が第一で總收入の三分の一に近く、農民の負擔が如何に大なるかを知り得るであらう。州政府歲出の最大は矢張り英人の文官俸給費で全歲出の六割以上を占めてゐる。これは少し古い統計ではあるが、英國の印度搾取年額は一億六千七百萬ポンド（當時は一ポンド十圓）で、その內譯は投下資本の利子一億ポンド、官吏の俸給三千萬ポンド、貿易の利潤千五百

萬ポンド、工業利潤千二百萬ポンド、海運收益千萬ポンドと言はれてゐる。

印度は棉花、黄麻、油脂原料、皮革等豐富な農産資源を持つて居り、全人口の七割が農業牧畜に從事してゐる。また石炭、鐵鑛、マンガン、金銀等莫大な鑛産資源を持つて居り、第一次歐洲大戰以來これらに依る工業が盛んとなり、今や世界十大工業國の中に入るやうになつた。これら近代産業の資本は大部分土著資本家の供給に依るもので、英國資本は鐵道とか灌漑工事の如き政府關係の特殊事業に投下せられてゐるのみである。しかし土著資本に依存してゐる印度産業も、英人の代理經營といふ方式の下に殆んど完全に英人の手に把握せられ、その支配と統制の下に立たされてゐる。

貿易は豐富なる農産物に依り出超國となつてゐるが、全輸入の七割以上に及ぶ高い英國製品を買はされるので、土著民は浮ぶ瀬のない貧困生活を續けてゐる。日本との貿易は昭和六年以來日本品の壓倒的進出に會して、同八年日印通商條約を廢棄するに至つたが、その後彼我の歩み寄りに依り新通商條約を結ぶに至つた。印度としての對日貿易は英本國に次ぎ重要なる關係にあり、輸出入とも第二位を占めてゐる。また日本からの輸入品は綿絲綿製品が主で、全額の三分の一に近く、日本への輸出品は棉花が主であり全額の八割以上を占め、輸出超過を續けてゐる。印度の鐵及び鐵鑛も輸入してゐるが、我が國にてはたとひ國内增産計畫があるとも、將來尙はこれを利用する必要があるであらう。

印度人は白人の如き現實的、鬪爭的、積極的なところが少く、幽遠な非現實的思考に活き、强力政策を好まない倫理觀、道德觀念の進んだ宗教的國民である。宗教は人種及び言語の複雜なるが如く、極めて雜多ではあるが、印度教(ヒンヅウ)が全人口の七割を占め回教(マホメット)が二割を占めてゐる。人口は三億五千三百萬人でその内直轄領にあるものは二億九千萬である。增加率は極めて旺盛で、最近五十年間に一億を增加して居り、大正十年から昭和六年に至る十年間に於ても一〇・六%の增加率を示してゐる。人種は日本に於ける五百羅漢で知られてゐる如く、風貌を異にした多數の人種を包擁してゐる。これは過去數千年に亙る各種族の移住混血に原因してゐるからである。

これを要するに印度は國土廣大、人口は多く資源に富み、洵に英國の寶庫ではあるが、印度人としては武器を取上げられ經濟を奪はれ、搾取赤貧の苦惱から逃れんがため民族的自覺と相俟ち完全なる獨立自由を得べく蹶いてゐるが、印度人相互に反目があつて擧國的堅固なる團結が困難であるのみならず、印度人自身の性格や文化的素養に、英人とは到底太刀打ちの出來ない弱味を持つてゐるので、英國自身が崩壞するかまたは他力に賴らないでは所期の目的を達することが困

難であらう。しかして今次歐洲大戰が始まつて以來、印度の英本國に對しては勿論、亞細亞に於ける地位も亦更に重大を加へて來たやうである。卽ち獨逸の窮極の指標がバルカンから中央亞細亞を經て印度に向いてゐることは想像するまでもなく、ソ聯積年の志望が印度進出にあることも亦疑ふ餘地はない。また東亞の安定勢力たる我が國とても、滿支四億五千萬人と共に印度の三億五千萬人に對し、經濟的握手進展を希望することは、亞細亞人の亞細亞として當然のことであらう。

第四十四夜　比律賓群島

比律賓群島は一千年も前から支那との通商關係があり、日本とも古くから交渉があり、戰國時代には多數の日本人が居住し關ケ原戰時分にはその數三千に達してゐたが、日本の鎖國政策に依りその勢力漸減に反し、白人勢力東漸の犧牲となつて先づ西班牙の領土となつた。ところが明治三十一年米西戰爭の結果、米國艦隊の占領するところとなり、米國は島民の反抗と獨立希望とに依り、大正五年「比島に完全な政府が出來次第獨立を許可す」との法案を以て臨み、その革命的擾亂を沈靜せしめたが、その獨立運動は年々猛烈を極めたのと、米本土と比島との經濟問題に絡んで昭和九年に左の要旨の獨立承認案を決定するに至つた。

一、十年乃至十二年以內に比島の獨立を許可す。

二、比島獨立の上は米國陸軍根據地を撤廢する。

三、海軍根據地は獨立後も撤廢しないが、獨立二年後に於て大統領は比島政府とこの問題に關して交渉を開始することが出來る。

そこで翌年には比島共和國政府が成立し、完全獨立の日を期して著々と進んでゐるが、日本人の比島に於ける經濟的勢力の侮るべからざるものがあるのと、支那事變を契機とする日本の南進政策に疑懼を抱き、本年より一般外人入國數の制限と共に、年々二千五百人から入國する日本人を五百人に制限することにした。

比島の人口は一千三百五十萬、その九割は比律賓人、その他はネグリート族と呼ばれる混血種である。在留外人は十數萬を數へ、その中支那人が最も多くて十萬內外、日本人はこれに次ぎ二萬五千人を超えてゐる。その他米國人、西班牙人、英國人の順序である。比律賓人は米國が多年に亙り、產業よりも教育に重きを置いて指導啓發したがため、南洋土人中最も優秀な民族となり文化の程度も高く、人格、知識ともに他の南洋土人とは趣きを異にしてゐる。しかし地方により

著しく文野の程度を異にし、北部呂宋及び中部諸島は大いに開發されてゐるが、ミンダナオ島中には未だ文明の空氣に觸れぬところがあり、その他野蠻未開のパコポ蠻人の蟠居してゐるところもある。

比律賓群島は、我が臺灣と一衣帶水の地にある大小七千餘の島嶼から成つて居り、呂宋島が最大でミンダナオがこれに次いで大きい。總面積は二十九萬六千平方粁で、日本の五分の二に相當する。全群島は大山系に屬し、山岳に富み河川は少いが、諸所に地味肥沃の平野が連なつてゐる。しかし島民はこれらの沃野を開發しやうともせず、千古斧鉞を入れない森林が全面積の七割に及んでゐる。

産業は農業が主で、纖維工業、林業、鑛業、牧畜、水産業がこれに次ぎ未だ原料國の域を脱しない。農業は僅か全面積の一割二分五厘を開拓してゐるばかりで、尙ほ一千萬町歩の未墾地を持つてゐるが、島民に企業心が乏しいため殆んど外來人の活動に俟つ狀態である。農産物は米、砂糖、麻、煙草、椰子油、コプラ、玉蜀黍等で、島民は米を常食としてゐるがため自給自足に達せしめやうと努めてゐる。麻は多く日本人の栽培するマニラ麻のことで、製綱用を主とし、眞田麻、製紙原料にも用ゐられてゐる。煙草も葉卷のマニラ煙草として世界に名を知られてゐる。

比島では他の南洋諸島と異なり、支那人勞働者の入國を禁止してゐるので日本人の産業上の活躍を促し、可なりの成果を得てゐるが、第一次歐洲大戰後公有地法を制定したがため、土地所有のため可なり窮屈な制限を受けることになつた。日本人總數の約七割がミンダナオ島のダバオ州に集まつて居り、三萬五千町歩の農園を持ち麻を栽培してゐる。

國内交通は地方に至るまで良く開け、自動車の普及甚しく道路の延長一萬粁以上に達し、鐵道も延長千三百粁に及んでゐる。沿岸航路は良く發達し海外航運もマニラに寄港する外國船は頗る多い。貿易は輸出超過の傾きがあり、米國が總額の七割に達し、日本はその次位にある。日本からの輸入は綿製品、絹製品、陶磁器、硝子製品等であり、日本への輸出品は麻、砂糖、木材、果實、煙草、屑鐵等である。

島内の氣候は大體に於て雨季、乾燥冷涼季、乾燥炎熱季に分つことが出來、雨季は六月から十月までゞ相當に雨量が多く、大暴風雨の襲來もこの季節に多い。乾燥冷涼季は十月から二月まで、同炎熱季は三月から五月までゞある。氣溫は平均華氏七十九度三八で、最高溫九十度を超えることなく、高溫のときでも四時冷風が吹くので、炎熱堪へ難いやうな心配はない。衞生も行屆き、天然痘やコレラ、ペストの如き惡性流行病は殆んど起らない。

マニラは人口三十萬、比島の文化、政治及び商業の中心地で太平洋交通の要衝となつてゐる。ダバオは麻及びコプラの集散地で人口四萬七千、その一萬七千が日本人で、英領北ボルネオのタワオと共に南洋に於ける二つの日本人村を形成してゐる。

これを要するに、日本は曩に北滿洲國の獨立を迎へ、數年後には南比律賓の獨立に會すべく、今や大國支那が白人の羈絆から逃れんと盤根錯節を切り開きつゝあるのと共に、東洋人の東洋が實現しつゝあるは、その盟主を以て自任する日本として洵に幸慶の至りである。また地理的に見るも我が南洋委任統治地より寧ろ便利の位置にあり、將來大いに經濟上の提携發展を策すべきである。只米國が英佛を語らひ日本に事を構へんとする場合、比島が英領マレイと共に軍事上重要なる位置に立つべきことを豫め覺悟せねばならぬ。

第四十五夜　蘭領東印度

蘭領東印度は、北にマレイ半島、佛領印度支那、比律賓諸島や我がカロリン諸島を控へ、南に濠洲を望み、太平洋と印度洋との間に位する大小多數の島嶼から成つて居り、神戸から約十日の航海で達するところにある。面積は百九十萬平方粁で和蘭本國の六十倍、日本の內地外地を合せた領域の三倍に當り、爪哇、スマトラ、セレベス、ボルネオ、ニューギニア等の大きな島から成つてゐる。その內ボルネオ及びニューギニアを除く外は全部火山地帶である。ボルネオ及ニューギニアにある河川は、延長大で島內の交通路となつてゐる。ボルネオは山岳が中央部にあるため海岸寄りは一帶に低地を爲してゐるが、爪哇とスマトラは山脈が島の中央を避け、スマトラは西岸近く走るがため印度洋岸一帶は山岳重疊し、東海岸は廣漠たる平野を現出してゐる。爪哇は北岸は低地であるが南海岸は斷崖絕壁を爲し、水深くして常に風波がさわがしい。

人口は約六千七十萬と言はれてゐるが、首府のある爪哇島は面積十二萬平方粁、我が本州の八割の廣さに對し四千二百萬の人口を抱擁して居り、一平方粁三百十六人といふ世界一の密度を持つてゐる。人口の主は土人卽ちインド・ネシヤ族であつて、和蘭人は二十一萬人であるが、純粹のものは七萬人で他は土人との混血兒である。その他支那人百二十萬、アラビヤ人七萬、英領印度人三萬、日本人、獨逸人各七千五百、英國人二千五百、米國人が七百くらゐ居る。

爪哇は我が奈良朝時代に佛敎の隆昌を極めた古き文化を持ち、支那や日本とは古くから交渉もあつたが、蘭領三百年を經由して今や和蘭女皇が統治の最高權を握り、總督をバタビヤに駐在させてゐる。和蘭本國は小國であり農業國であるが、人口は八百數十萬を算し、毎年の增加率約十

萬に上るがため自給自足が出來ず、天惠豐な東印度諸島を以て唯一の培養領域となし、これが統治策には全力を盡くし、最も巧妙を極めたがためその成功を謳はれてゐる。即ち本國から八千八百浬を隔つる植民地への遠距離交通を安全確保するため國際的紛爭を少くし、自由貿易主義を取る等、傳統的平和主義を以て一貫したがため、今日の隆盛を齎したものであらう。

蘭印諸島は北緯十度、南緯十度の間に横はり、太陽の熱と光とを十分に享受し、天然資源に最も惠まれた和蘭の寶庫である。産業は農業が主で、工業、鑛業及び漁業は發達の途上にあり、所謂原料國の域を脱しない。從來白人企業に依る輸出向き産業と、土人農業に依る國内消費向き産業との兩建てを以て發展を遂げて來たが、輸出向きの生産品である砂糖は世界三大産地の一であり、ゴムは英領マレイに次いで世界第二位である。また世界産出の九二%を占める規那（藥品）八二%を占める胡椒、七八%を占めるカボック等の重要産物を有し、椰子、纖維品、茶等の農産物の外、八百萬瓲に及ぶ世界第六位の石油、四萬瓲の世界第三位の錫、百數十萬噸の石炭、二十萬噸のボーキサイド、その他金、銀、ダイヤモンド、硫黄、マンガン、鐵鑛、燐等である。また土人向きとしては、常食の米を筆頭とし、玉蜀黍、落花生、大豆等種々のものを産する。

林業は爪哇島に於けるチーク材を主要なるものとしてゐるが、爪哇島以外の外領に於ける森林地帶は頗る廣大で外領總面積の六九%を占めてゐる。水産資源は魚介類無盡藏の寶庫と言はれ、日本人、支那人及び土人に依つて營まれてゐるが、土人の漁撈方法は頗る未熟幼稚のため日本人の進出餘地は甚だ大きい。特に鰹、鮪の漁業及び眞珠養殖等が有望である。工業は中小工業の域を脱せず大したものはない。

蘭印の經濟は原料國のことゝて、海外に於ける經濟情勢の影響を受けることが大きいが、その貿易は和蘭本國を首位とし、その盛大なることは英領マレイと共に南洋に於ける双璧である。また國内經濟には華僑の勢力が強く、殊に卸商及び小賣商に於て頗る優勢である。彼等は日本品を取扱つて利益を得てゐるが、支那事變以來蔣政權の宣傳懐柔に惑はされて、日本品ボイコットから日本商ボイコットへと抗日意識に燃えてゐたが、蘭印當局の取締と新政府の成立等事態の變化に伴ひ、漸次覺醒しつゝあるやうである。

蘭印は我が國の好顧客であり、昨年の如き我が輸入約七千萬圓に對し、輸出一億三千七百萬圓に上つてゐる。日本人はその機會均等の政策に惠まれて自由に活動してゐるが、土地國有制度のため土地利用に多少窮屈であるのと、未開鑛區の開發に困難の點あるも、大部分が小賣商として發展して居り、漁業、農園、小工場等を經營するものもある。

氣候は乾季と雨季とあり、高溫ではあるが海岸附近に於て平均氣溫攝氏二十六度乃至七度であり、涼風を伴ふのみならず夜は氣溫が下つて快適である。一般に高原地が多く七百米以上のところに行けば、年中春秋の如く清涼にして百花亂れ避暑に好適である。

爪哇島は人口最も稠密で文化は大いに開け、山村水廓到るところ開發し盡くされて坦々たる鋪裝道路は四千粁に達し、如何なる片田舍にも縱横に貫通してゐるのみならず、鐵道は延長二千五百粁に達し、沿岸海上交通も亦大いに發達してゐる。土地は肥え、勞力は豐富であり、砂糖の產出に名高い。教育は普及し文化設備は整ひ、三百年に亙る和蘭の努力を實證してゐる。首都バタビヤは人口五十四萬、商業の中心地であり、スラバヤは三十七萬、スマランは二十二萬の人口を擁し第二第三の都會であり貿易港である。

スマトラ島は面積爪哇の三倍、世界四大島の一つで地理的關係及び地味の良好であるため、今や續々開發中で石油、石炭、ゴム、椰子等が產出し、將來大なる發展を期待せられてゐる。

ボルネオ島に於ける蘭領は全島面積の七分の五を占め、森林、原野が多く開發は遲れてゐるが、石油の產出は各方面に重きを爲してゐる。

ニューギニア島は、英、濠、蘭の三領に分れてゐるが、開拓の最も遲れたところであり、資源に富んでゐるも目下調査時代であつて、棉花栽培等我が南洋興發會社が開發に努力してゐる。

蘭印の國防は多年の平和政策に基き、陸軍は步兵六聯隊を基幹とする三萬四千人、海軍は巡洋艦以下約三十隻の微々たるものであつたが、事變以來日本の經濟的南進政策に疑懼を抱くと共に日米關係の惡化が蘭印に直接影響することを怖れ、急に國防を論議するに至り、軍備の擴張を圖ると共に義勇軍の編成や防空施設等國民訓練に努め、シンガポールの軍港や英海軍を賴みにする等稍〻神經過敏の狀を呈してゐる。特に今次歐洲戰爭の進展に伴ひ、英國の極東に於ける壓力が減殺せるに加へ、和蘭本國の壞滅と共に、蘭印の將來につき蘭印自身の憂慮は勿論、世界注視の的となつてゐる。

これを要するに、蘭領東印度は人口多く原料に富める上に、自由貿易、機會均等の平和政策に依り今日の發展を遂げたるのみならず、將來益〻開發を期待せられ、我が國としても地理上の關係及び有無相通の關係から一層通商貿易の發展を圖らねばならぬ。しかし國際政局上及び華僑の問題等に依る彼我の誤解を解き、親密の度を向上することが更に急務であり、先づ彼我の有識者が互に相手の國情を知ることが先決問題であらう。

第四十六夜　大和の建設

從來學校に於ける日本歴史の教育は、西洋學の法式に倣ひ文化史、戰爭史、政治史に偏重し、奈良朝の文化であるとか、桃山時代の文化であるとか、その建築、美術、風俗等の爛熟せるところを高調して敎へるかと思へば、何々亂などと內亂の原因や結果等見苦しき部分に力を入れ、時に皇室尊嚴に關する恐懼のことがあり、また權臣、武門の越權爭覇を詳述して外國歴史の事情と相似せしめ、日本精神の本流を離れることが多く、著者の最も遺憾とするところであつたが、滿洲事變以來國民の覺醒を促し眞實の日本を見直すことゝなり、特に本年は紀元二千六百一年に當り、普く建國の昔を偲び肇國の理想、國體の精華を體得するに至つたことは天惠の賜であり、開闢以來最も重大なる時運に際し、天業恢弘の大事を遂行すべく國民の啓蒙奮起を促すことを得て、皇國のため洵に慶祝の至りである。從つて歴史的記述は他の著書や敎科書に讓り、玆には淵源的經過的に日本の特徴ともいふべき事項につき、著者獨得の解說を試みたいと思ふ。

抑〻天孫降臨前の高天原はどこであつたかは、いまだに學說は一致しないが、これは吾人の生れてから物心のつくまでの事柄が、父やその他から敎へられたがため知つたので、敎へるものがなければ知りやうのないのと同樣、神に敎へを乞ふより外に知りやうはない筈である。只物心つく頃より堅き信念として語り傳へられたるものこそ、最も尊きものであつて、吾人が曾祖父以上の祖先の事績に疎きに拘らず、千年以上に亙り語り傳へられたる事そのことが、民族の信念として徹底的のものであり、他に類例のない尊き事實であり、更に臆測を逞くする必要はないと思ふが、兎も角吾等の祖先がどうして日本列島に住むやうになつたかを想像すると、一番最初に來たものは東部西伯利に住んで居つた最古の民族が樺太、北海道を經て、または日本海を漂流して本土に入り、九州邊にまで南下した先住民であつて、南下するに從ひ天惠豐のため、樂天的であり情操は豐であつたらうが、文化は低位にあつたかと思はれる。次ぎには北滿、沿海州、北部朝鮮方面に住んで居つた民族が朝鮮を傳ひ或は漂流に依つて南朝鮮、壹岐、對馬、北九州、山陰道に移住し、支那文化の影響を受けて稍〻高度の特種文化圈を構成した出雲系がある。これは文化的頭腦の進んだ民族と思はれる。最後に來たのが南洋、南支方面から臺灣、琉球列島を傳つて九州の南端、瀨戸內海、紀伊半島、伊豆半島、房總半島の海岸に移住した海洋民族であつて、勇敢で團結力が强く進取性に富んで居つた。これが我が民族の主流を爲す天孫系である。

南九州に繁榮の根據を持つた天孫系は、所在先住民と融和混血し、更に大勢力の出雲系と交流

しこれを統制下に置いたが、何分僻陬の地とて交通は不便であり、先行移住者との連絡や諸民族統制上に不便を感じたのみならず、土地狹隘のため人口の增殖に伴ひ既に繁榮の限度に達したので他の適地へ移住の必要に迫られた。そこで出雲系圈內は地盤も鞏固であり發展の餘地の少いことを知り、既に前衞的に先行移住して居つた太平洋沿岸諸地方からの同族の報告に依つて、大和平地が政治的、產業的適住地であることを知つて大擧移住を企てたものと思はれる。大和平地が日本の中心であると考へたのは先行移民の先端である。房總半島から九州までの地域では、大體大和が中心となるからである。また何故大阪、京都、名古屋、東京等現在の如く大都市に發展の要素を持つ地點に著眼しなかつたかと言へば、當時はまだ洪積時代末期のため、一般に水位が高く、大阪灣、東京灣等の灣入は現在より更に深く、且灣入頭附近の陸地は潴澤地であつたがためである。京都平地も入海的潴澤地で現在も鳥羽の深田や、巨椋池が當時の面影を殘してゐる。

從つて神武天皇御東征の砌りは、海岸から直ちに生駒山脈に對し上陸作戰を企圖せられたわけである。これに對し長髓彥は山腹に後退配備を取り、天皇軍の山地戰の原則に基く分進攻擊に乘じて各個擊破の攻勢に轉じたがため、天皇軍はその上陸基地が戰場に接近し過ぎてゐたことゝ、分進中で各路相擊の出來なかつたがため、後世の上陸作戰に苦き經驗と實物教訓とを殘された次第である。

天皇軍の海上進擊は、元來海洋的素養に富んでゐたことゝ先行移住群の案內等に依つて、たとひ荒天、灘波の航海に苦勞せられたとは言へ、大體順調に經過したと思はれるが、山地作戰には非常な苦難を嘗められたやうで、紀州半島の南端から現在でも交通最も不便なところを踏破して、大和平地に進出せられたそのことだけでも、兵家の見る大偉業であつて、こゝにも迂廻に依つて敵の側背に進出するといふ、我が民族特有の戰略戰術の原則を後昆に貽されたわけである。

島嶼や半島を目標に去來する海洋民族は陸上に永住しても、尙ほ島のやうな孤立形の山に愛著を持ち、天の香具山とか、畝傍山の如き大和平地南部の島の如く聳立した山々の間に都を奠められたものと想像せられる。

大和平地に國基を開いた我が祖先は、年處を經るに從つて繁榮し、逐次人口の增加するにつれて平地の狹隘を感じたことゝ、民族本然の進取發展性が勃興し、八紘一宇の大理想を廣く遠く洽ねからしめんとする欲求が起つて來た。そこで前者のためには食糧の增產計畫を立てゝ人口增加に對處せねばならなくなつたが、元來大和平地は高盆地のため水利に乏しく、現在でも「大和豐稔作知らず」と言はれるくらゐ降雨量が多くて全國的不作の場合にのみ大和は豐穰なのである。

これがため崇神、垂仁の兩朝に於て、灌漑用の池を掘り溝を開いて、耕地の增大を圖られた次第である。

また皇威の擴大、民族の膨脹政策としては皇族（四道將軍）を四方に派遣定住せしめられて、これに附隨する人口の分散と、異民族の綏服同化を畫せられ、大和朝廷第一次の發展を見たのが、建國後六、七百年時代である。

九州方面に對しては日向朝時代には能く統御の手も屆き、その交流も親密であつたが、大和への移動後は、地元の固めと周圍の經略に專念したのと、遠隔、交通不便等のため自然に疎隔し、遂に景行天皇の御宇に熊襲の背叛を見るに至つた。そこで　天皇の御親征、皇子日本武尊の御征伐次いで尊の御子　仲哀天皇の御親征と、三代に亙つて聖戰を試みられたが、出雲系の祖國新羅の後援があるため容易に目的を達し得なかつた。しかも征戰の戰略重點を既設勢力範圍の瀨戸內海に取られたがため、敵皆後の連絡線を遮斷することの出來なかつた憾みがあつた。そこで　仲哀天皇の皇后（神功皇后）は、その母系が新羅の皇子から出て居り、出雲系に親密關係があつたので、山陰道方面より親征せられんことの意見上申をせられたが、遂に皇后は山陰道　天皇は山陽道と兩道併進せらるゝことゝなつた。ところが不幸　天皇の陣中崩御に依り折角の企圖も挫折を見るに至つた。多くの者は仲哀天皇の御事績につきあまり知らないやうであるが、天皇は日本武尊の御子だけに、體軀偉大、非常に御勇武にあらせられた御樣子である。

神功皇后は出雲系の武內宿禰を大臣兼幕僚長として、拔本塞源的策案を立て、直接に背後勢力たる新羅遠征を企てられ、一年未滿の短期間に平定の目的を達せられ、爾來九州は永久に平穩に歸し得たのみならず、朝鮮半島に牢固たる勢力を扶植せられるに至つた。この政戰兩略の御敎訓は、東亞現時の事態に鑑み、吾人の痛切に感銘するところである。

第四十七夜　日本文化

朝鮮の經略以來、大陸との交通が開け、印度、支那の文化が、非常な勢を以て傳來し普及するやうになり、我が國に文化的一維新を劃するに至つた。而して大陸文化渡來の當初は、憧憬、舊思想との葛藤、鵜呑み、摸倣等の經過を見たが、時を經るに從ひ、我が民族特有の融合性と固有性とを發揮し、それに聰明なる判別、創造、善用の指導性が作用して、明治に至る千數百年の間……尤も此の間にも元軍の來襲に依る外寇の刺戟、八幡船、胡蝶軍その他商賈の朝鮮、支那の沿岸及び遠く南洋にまでの活躍、秀吉の朝鮮征伐等の對外的影響も作用はしたが……大體に於て國內間

題に終始し、この長期間に於て混和融合一體となり、今日の我が文化を造成し、日本人の特性を固成するに至つた次第である。

第二の大維新は、幕末以來歐米文化、歐米勢力が怒濤の如く押し寄せて來たことに依つて行はれた。その經過は、印度、支那の文化が傳來した時と略〻同樣であつたが、前者は我が武力に依つて傳來の道を疏通したがため、對內問題だけで濟んだが、後者は歐米の武力が作用して、我が門戸を開いたがため一時大なる混亂を惹起し、また擧國的大なる決意を促すことゝなり、攘夷から憧憬、鵜呑み、摸倣時代を經ると共に、外來文化の攝取に依り國力を飛躍的に增强することが出來、明治、大正、昭和に亙り未曾有の國家大發展を見るに至つた。しかし今や反省、判別、創造の時代に入り、固有文化と外來文化との融合調和に依り、我が國特有の文化を固成し、先づ東亞に、次いで世界に光被せしむべく、建國の理想である八紘一宇の思想と、擧國的決心熱意を以てその實現に邁進しつゝある現況である。

大和朝時代に國內平定、勢力圈擴大のため行はれた四道將軍の配置や東西征伐に依つて、日本列島の各種民族は大體混和融合することを得たが、大陸文化の渡來と共に多數の支那人、朝鮮人が歸化して地方に土著することゝなり、國分寺の創設等、地方に文化中心を散在せしめられて、一層血液的文化的に融合するに至つたが、尙ほ近衞兵の地方から交代服務するとか、國守、防人の地方派遣とか、降つては地方武門武士の中央に於ける政權爭奪に依る入替り等に依つて、各種族は全く溶融一體となり、今日の我が大和民族となつたわけである。

そこで、神代以來數千年に亙り融合一體化した我が民族が、如何なる文化を固成したか將來如何なる文化を創造すべきかにつき、淵源的に述べて見たいと思ふ。

〻先づ日本文化の根源を爲すものは國體觀念に基く道德律が至善崇高、整然として統一せられ、且その信念及び實踐の强烈徹底してゐることである。而して國體觀念の基調は、我が國體が時間的空間的に一元一體であるとの觀念である。卽ち天御中主神、高皇產靈神、神皇產靈神の三神が天地萬物を創造せられ、この造化三神の子孫である伊弉諾、伊弉冉の男女二神が、日本國と日本國を永久に治めるところの祖神、天照大神をお生みになり、その子孫が瓊瓊杵尊であり、神武天皇であり、今上陛下に渡らせられるのであつて、日本國民はこの神々やその御系統を先祖とするものである。斯くの如く天地萬物、國土、治者、被治者の關係が神代から現代及び將來無限に一元であり、一體であるといふことは、他には絕對にその例を見ない世界唯一の事實であり、また何物にも超越した崇高なる觀念である。而してこの神々やその御系統は、逐次子孫に血統を傳へ

られたのみならず、その靈をも共に傳へられ且親らの靈は、空間と時間のある限り生存して居られるのである。

靈は物質ではないが科學的に說明するならば、原子よりも電子よりも、微細な靈子ともいふべきもので、どんなところにも存在してゐる。若し人間が無電の送受話器のやうなものを發明して靈子を我が物にすることを得たならば、人類文化の最後の段階に達し得るであらう。靈は夢、靈感、御籤、易等に依り不完全ながらその一端に通じ得るが、雜念を鎭靜し眞の誠心を集中することに依つて、或る程度靈に通じ得るもので、和氣淸麿の宇佐八幡宮に於ける神託の如きは、その著しき例である。神社、佛閣、忠魂碑及び墓標等にはそれ〴〵祭神の靈が宿つて居り、禮拜する人々の靈力、靈量の總和が多い程靈驗は一層の顯著である。また地鎭祭とか、招魂祭等の神事に於て、神官が行ふ降神式に依り神靈は一時その眞榊に宿り給ふのである。神事に於ける祓ひや祝詞や音樂は雜念を鎭靜し、心身を潔齋して神靈に通じ易くするものである。

今上陛下が現神（あらひとがみ）であらせ給ふと同時に、吾等も亦祖先の靈卽ち神の靈を宿してゐるのである。卽ち我が國の道德は各人に宿つてゐる祖先を同じくする神靈に基いて、思考せられ實行せられるものである。我が國の祭政一致といふことは祖先の神靈に基いて統治せられることで、神靈は天皇御親ら御宿し給ふけれど、祭祀に依つて一層神靈の働きを顯著にし給ふわけである。吾人が朝夕祖先を拜し、皇室を念じ、神に詣づのも是れ皆神靈に基いて日常の業務に從事せんがためである。卽ち日本道德の基調を爲すものであり、また日本が神國である所以である。

一元の祖先から一系の神靈と血統とを承繼ぎ給ひ、國土及び國土上の人民始め一切のもの〻中心であらせられ、また統治者であらせられる　天皇に對しては、人民を始め禽獸草木一切のものが、各〻の持つ一切のものを　天皇に歸趨し奉り誠心誠意忠節を盡くすのが日本道德の根源である。また吾人がその靈と肉體とを直接繼承した父母に對し孝養を盡くすことは、忠節に次ぐ第一の道德であり、父母より繼承した靈肉を完成して子孫に貽す務め、完成の源泉である夫婦が相和すること及び子孫完成の基調である父母の愛は、孝養に次ぐ第二の道德である。兄弟、親族を始め一般同胞が互に尊信敬愛し、協力することは夫婦愛、父母愛に次ぐ第三の道德である。

以上神を祭り、忠節孝養を盡くし、夫婦相和し、子孫を撫育し、同胞互に信愛協力することは國家の團結を鞏固にし、その存續發展を天壤と共に無窮ならしめる所以である。而してこの日本道德の實踐には禮が極めて必要である。禮とは靈と靈とを相通ぜしめる方法である。卽ち祭禮は各自の靈を神靈に通ぜしめんがためであり、吾人相互の敬禮は相互の靈を通ぜしめんがためであ

る。この靈が相通することに依つてのみ、日本道德の眞髓が發揮せられるのであるから、日常禮の實踐には特に入念鄭重でなければならぬ。

第四十八夜　大和民族の特質

吾等日本人は如何なる要素と經過とに依り、今日の民族的特性及び文化を固成したかを回顧すると、その要素は民族混和の原種である先住民、出雲系、天孫系の特質卽ち島國人、大陸人、海洋人の特質の調和せられたものがそれであり、これに大陸文化の影響を受け、長き島國生活が順化し、更に近世に至り、歐米文化が大なる影響を齎しつゝあるのがその經過的作用である。

大和民族本來の特質は、第一に情操が豐で特に和歌に依つてそれが顯著に現はれてゐる。また多分に樂天的開放的なるところがあり、淡泊、明朗、快活であるが時に遊惰の風を生じ、祕密保持に不注意である。その他物の表現にもユームアなところがあるのも特徵である。例へば素盞嗚尊のオロチヨン族征伐を大蛇退治となし、穴居生活の土籠り人を土蜘蛛と稱し、俵藤太が多數の部下（手足）を有する山賊討伐を百足退治と謂ひ、堺に於ける豪商の息子が貧民の娘との戀から家庭爭議を起したとき、この娘をば葛葉の狐に仕立てるなど、その類例が甚だ多い。

第二は理智に富んで居る點であつて、智能上には白人、支那人と共に世界最優秀の地位にある。これが深遠奧妙精緻を究める宗教、學術、技藝の上に燦然たる花を咲かせ、また戰爭の智略的指導に卓拔なる功績を殘してゐる。但し一部の貴族華冑人中には情操と理智の働きのみが強く現はれて、時に優柔性を發揮することがある。

第三は著しき進步性を持つて居り、意の作用が頗る强烈で、且つ大なる抱擁性のあることである。卽ち民族の理想を發現し、その生活を擴充し文化を向上せんがためには、如何なる艱難辛苦をも突破して開拓進取せんとする意慾が頗る强烈である。これがため大なる熱意を以て他の文化を吸收して獨自の文化を完成し、また公明親愛以て他民族を抱擁同化して鞏固なる團結たらしめるの才能を持つてゐる。また荊棘の道を拓くためには頗る勇武であり、堅忍剛毅、廉耻犧牲心に富んでゐる。但し率直短氣にして怒り易い缺點もあるが、この第三の特性が今日の日本を築き上げ、八紘一宇の大理想を以て世界に君臨せんとする、將來を持つ大原動力である。

以上の如き民族的特性を持つ我が國は、人口が增加し民族統治の極大に達したとき、支那文化を吸收して官制の改革や土地稅制の整理、國防の建設等、中央集權に依る國家の體制を整へ、風俗を矯正し文字を得、學問、美術、工藝、建築等の一大進步を促したのみならず、佛敎、儒學の

影響を受けて、思想上に補強するところが頗る大であつた。

佛教慈悲の思想は、原始的殺伐殘忍性を陶冶し、因果輪廻の思想は死生超越觀念を養成して勇武に作用し、大楠公の如き七生報國の積極的忠節となり、時宗の元寇に於ける如き電光影裡斬春風の勇斷となつた。また國王、父母、衆生、三寶の四恩に對する感謝の念は、忠孝、信愛の特性を强化し、精神生活に潤澤、滿足、落ちつきを與へた。

儒教は學究的道德觀念を教化的に、信念的に扶植したが、特に仁義の思想は佛教慈悲の思想と共に、國民性に影響するところが頗る大きかつた。また修身齋家の道は原始的奔放逸脫生活を矯正して思索的教養を與へ、家族制度、國家組織を理性的に道義的に强化することが出來た。

神代以來數千年の島國生活が、各系人種を一大鎔鑛爐に入れたるが如くに混和一體として、現在の我が民族を固成したが、外來文化も亦長を採り短を棄てゝ、我が國固有の文化を完成したもので、佛教の厭世消極思想を清算して積極的國家主義たらしめ、儒教の禪讓放伐の思想を切り捨てゝ、天命を神靈に轉換したる如きは、明治以來の白人文化陶醉思想に大なる示唆を與へるものである。

また島國に於ける農本生活及び氣候風土の影響するところは頗る大きかつた。卽ち氣候溫暖にして四季の變化及び雨風は順調であり、山河秀麗、四海淸淨、花鳥風月の美に富み、五穀豐なるがため、大自然に隨順するの性質を養成し、至誠にして天眞流露し、情操豐にして而も淡泊淸淨を好み、春耕秋穫は業に勤勉ならしめたが、一面に桃源醉夢の遊蕩性を持つてゐる。また變化を好むところから創造の才を得たが、持續性に乏しく熱し易く冷め易き性質を釀成した。

千數百年に亙る貴族、武門の權勢爭ひや、藩閥の小地域割據等の影響するところも甚だ大きかつた。卽ち權勢慾から英雄的修練が行はれ、その中樞勢力を把握せんとしてこゝに尊王の思想が强くなつた。一面小さき環境內の勢力抗爭に沒頭するため海洋的大氣宇を消磨し、他人のことに關心を深め、干涉、排他、嫉妬の念强く、敵愾心、復仇心を養成した。また多年の階級生活に依り反撥性と卑屈性とを兩有するに至つたが、特に後者は商賣人根性として現在の經濟生活に禍根を貽すところが頗る大きいのみならず、外國に對する信用に影響したこともあつた。

最後に白人文化の影響である。鎖國三百年の夢は武力を伴ふ歐米文化の訪れに破れ、一時は上下驚駭、國內混亂を呈したが、その進步せる物質文化に警醒せられて忽ち憧憬、鵜呑み、摸倣、追及の經過を辿つて我が國文化に劃期的大發展を齎し、國力は開闢以來未曾有の大進展を遂げるに至つた。卽ち統治方式、諸制度及び生活樣式は一變し、數次の外戰に大勝を博する每に、財

政、經濟、產業及び交通の大進歩を促し、人口、富力、領域及び勢力圏は大いに擴大し、學術、技藝、思想、教育も亦大發展を遂げ、民族の特性たる忠節、勇武、智能は遺憾なく發揮せられ、民族固有の文化も亦擡頭復興して、美術、工藝、歌謠、演劇、武道、相撲より和歌、俳句、碁將棋に至るまで燦然として往古を凌ぎ、恰も冬季霜雪の下に蘊蓄した精力が春陽初夏の候に會して、百花爛漫、新綠欝葱として萠え立つ情勢は、實に世界の奇蹟であり、また一大偉觀である。

しかしながら明治以來七十有餘年の經過を回顧すると、諸制度や物質文化に於ては克く白人の長所を採り、今や殆どこれに追及し或る部門には彼を追ひ越すの域に達しつゝあるが、精神文化に於ては未だ咀嚼を全ふし固有文化との融合に依り、世界に光被せしむべき新日本文化を固成するに至らないで、目下その道程にあるものと思はれる。然るに第二次大戰に依り世界の情勢に大變化を豫想せられ、また東亞に新秩序を建設せんとして大規模の作戰工作を行ひつゝある日本としては、急速に日本獨得の文化を創造大成するの必要に迫られてゐる。これがためには先づ白人文化及び日本固有文化の眞相を究明し、明治以來人心の動向、思想の變遷を稽へて將來を處するに足る公明正大、確乎たる思想の固成が肝要である。而して白人文化や日本固有文化に就ては既に述べたところであるが、學者や知識層の大部竝に常時白人に接觸するものが、白人文化に憧憬し陶醉するのあまり、その思想まで彼に沒入し、日本傳統精神の保持進暢に薄く、これとの調和に依る創造に微力なるのみならず、文化の憧憬より白人種崇拜となり、教育方面から牢固として拔き得ないまでに進んで來たが、新聞、雜誌、映畫、ラヂオの普及に依り、白人の文物、生活內容が一層廣く深く眼前に映ずることゝなり、今や全日本特に大都市が歐米化したかとも思はれくらゐにまでなつた。進歩性の民族として善きを採り惡しきを捨て、固陋に泥まないのは大いに可なるも、過ぎたるは尙ほ及ばざる如しで、言語から衣食住の日常生活に至るまで必要以上に歐米化し、誇るべき傳統を沒却し、氣候風土に適合しないものまでも取り入れ、歐米をいつまでも先進國と尊敬して自らを卑下し、知らず識らずの間に精神的に植民化する如きが、果して日本の眞の姿であらうか。特に自由主義思想、個人主義思想、唯物思想が普及深入して我が民族第二の特性とまでなりつゝあるを憂ひて、傳統精神に生きると共に白人文化の長所を採用して、數次の戰爭に大勝した軍人を始め、一部學識者の警醒に努力するも時勢は如何ともする能はず、寧ろ軍人の如きは頑迷牢固そのものゝ如く蔑視せられたのが、滿洲事變までの實情であつた。

第四十九夜　黎明の日本

明治時代には幸德秋水一派、大正時代には灘波大助の如き、大逆思想を抱けるものを出したのは淸史の一大汚辱であるが、更に大正から昭和の始めに亙り、某國より働きかけ日本崩壞の魔の手である共產主義思想が、學者、學生及び勞働者や下層農民階級に瀰蔓し、天皇の尊嚴を冒瀆して、國體を改め光榮ある傳統の秩序を一變せんとの陰謀を企み、實際運動となりて國民の階級鬪爭が到るところに行はれ、高等學校や中等學校には、同盟休校の如き恩師や學校當局に反抗する運動が行はれ、下刻上の思想が蔓延するなど、傳統を誇る擧國一致の美德に大なる虧蝕隙を生じ、戰爭に、產業に、國威國勢の隆々たる反面、斯かる思想上の危弱性が相當大きく現はれたが、當局の嚴重なる取締りと歐米の侵略主義が馬脚を現はし、滿洲事變を契機にインテリ層が理想の殿堂と信じ切つてゐた、國際聯盟五十餘ケ國の日本壓迫に始めて目が覺め、次いで支那事變に日本本來の八紘一宇の大精神が蘇り、今やこの危險思想は殆ど全滅したが、多年に亙り培養した自由主義思想、個人主義思想、享樂主義思想は三つ兒の魂は百までともいふべきか、國民の腦裡及生活中に深く浸蝕してゐるがため、時局の刺戟に依り覺醒しつゝありといへ容易に拂拭し得ない實情にある。殊に學者や知識層にこの觀があり、歐米崇拜思想や白人摸倣思想は若き婦人層に相當强く沁み込んでゐるやうである。また事變の永續に伴ふ國內物資の窮屈に乘じ、闇取引、買溜等の利己主義に走るものゝ如き、戰線に於ける獻身殉國の貴き精神に相反し、これ全く白人思想かぶれの餘殃である。

白人文化渡來以後の內外情勢を大觀すると、明治初期は啓蒙時代、國內統一時代であつた。啓蒙に就ては斷髮令や廢刀令が公布せられ、土下坐を廢し、始めて東京、橫濱間に鐵道を敷設したときは政府が沿道民家に赤飯を配つて人心の動搖を防いだ如き、徵兵制度を血稅の飜譯から血液を搾取せられるものと誤解して騷いだ地方があつたり、電線に手紙を結びつけて傳達せられるものと思ひ、獸肉食を勸められても、納屋の土間で別の食器で食し食後鹽で淸めるなど、現在の靑年には想像も及ばぬ時代であつた。また王政は復古したがまだ政府の基礎が鞏固でなく、萩の亂とか神風連の蜂起とか、西南の役等の國內統一に力が用ひられた。

明治中期は獨立國の自尊に目覺め不平等條約の改訂に努力し、白人に日本の歐化認識を得んがため彼の鹿鳴館時代を現出し、甚しきは文部大臣にまでなつた人が白人との雜婚に依り大和民族の劣性を優性化すべしなどゝ主唱するに至つた(この人は刺客に會ひ非業の最期を遂げた)。また

東亞の一大獨立國であつた支那と戰ひ、亞細亞民族の優位を贏ち得た。明治維新に翼賛貢献して偉功のあつた者及びその同藩閥族が、初期、中期に互り政界に權力を有し、新日本の建設に努力したのみならず、その薩長出身者が今日の陸海軍建設に大なる功績のあつたことを認めねばならぬ。

明治後期は國力充實して國威を發揚し、東亞大陸に進展の地歩を築き世界の強國となつた。即ち英、米の後援があつたとは言ひながら、世界の強大國露西亞と闘つてこれに勝ち、朝鮮を併合して南滿洲に勢力を扶植するに至つた。日露戰爭は國家興亡の岐路に立つたことゝて、國民は非常に緊張し見事なる擧國一致體制が行はれ、その後も露國の復仇に備へ、英、米の白眼に對し民心は緊張を續け、國力は充實するの幸運にあつた。

大正年間及び昭和の始めにかけて民心は沮喪弛緩し、內攻外壓甚しく、國威停頓の時代であつた。即ち　明治天皇の崩御に依り大いに民心を沮喪したるところへ、第一次歐洲大戰の結果、強隣露國の崩壞と經濟界の好況に會し、民心頓に弛緩して奢侈享樂の風が盛んとなり、白人の物質文化、享樂文化の餘殃を遺憾なく發揮し、尙武心は衰へて數年に亙る西伯利出兵に於ても、その後援激勵等は頗る冷淡であつた。而も一旦經濟界の反動に會するや民心は萎縮し、姑息焦躁の

氣分に驅られあるところへ、共產主義の過激思想が侵入し、下刻上の階級闘爭を頻出し、遂には國體破壞の陰謀を企むまでに至つたことは既述の通りである。神國日本に於けるこの人心頽廢は神の譴めを被り、大正十二年の關東大震災を始め、丹後や伊豆等にも大いに地を震はしての折檻となり、　大正天皇は國民精神作興の詔書を渙發せられ給ふたが、爛れきつた民心矯正に果してどれだけの效果があつたかを疑ふくらゐであつた。殊に關東の大震火災には民心の危弱性を遺憾なく露出し、自己保全の逃避に專念して、近隣協力して消火に努めないがため、帝都を烏有に歸せしめ逃避の擧句は被服廠跡の大悲劇となつた。のみならず膽力の喪失から同胞互に疑ひて殺傷するなど、我が民族傳統の誇りを毀損し、祖先に對し洵に申譯なき次第であつた。詔書中に「浮華放縱ノ習漸ク萠シ輕佻詭激ノ風モ亦生ス今ニ及ヒテ時弊ヲ革メスンハ或ハ前緒ヲ失墜セムコトヲ恐ル……」との恐懼の御言葉があり、また「綱紀ヲ肅正シ風俗ヲ匡勵シ浮華放縱ヲ斥ケテ質實剛健ニ趨キ輕佻詭激ヲ矯メテ醇厚中正ニ歸シ人倫ヲ明ニシテ親和ヲ致シ公德ヲ守リテ秩序ヲ保チ責任ヲ重シ節制ヲ尙ビ忠孝義勇ノ美ヲ揚ケ博愛共存ノ誼ヲ篤クシ入リテハ恭儉勤敏業ニ服シ產ヲ治メ出テテハ一己ノ利害ニ偏セケシテ力ヲ公益世務ニ竭シ……」と宣はれた聖旨には、當時の世相がその逆であつたことを恐察し得るのである。

今上陛下朝見の儀に於て賜はつた勅語中にも「我カ國ノ國是ハ日ニ進ムニ在リ日ニ新ニスルニ在リ……」と、人心國運の停滯を戒しめ給ひ、「博ク中外ノ史ニ徵シ審ニ得失ノ迹ニ鑒ミ進ムヤ其ノ序ニ循ヒ新ニスルヤ其ノ中ヲ執ル是レ深ク心ヲ用フベキ所ナリ……」と、歐米文化や白人思想の盲目的採用追隨に頂門の一針を戴いた。尚ほ「浮華ヲ斥ケ質實ヲ尚ヒ模擬ヲ戒メ創造ヲ勗メ……」と宣ひて、人心の尚ほ革まざるを諭へ給ひ、御卽位御大典の際に賜はつた勅語中にも「爾有衆其レ心ヲ協ヘ力ヲ戮セ私ヲ忘レ公ニ奉シ……」と宣はれてゐる。これは國民が尚ほ白人思想の個人主義に走つて擧國一致の信念に薄く、自利を追ふて奉公に忠ならざるところからの　聖旨と拜察して恐懼この上なき次第である。滿洲事變以來人心の趨向は大いに改まつたとは言ひながら、我が國民の各層が以上數々の御聖旨に報い、聖慮を安んじ奉るだけの自信ありや否や、日常の生活に想到して沈思三省すべきである。

大正年間から昭和の始めにかけての世相は以上のやうであつたが、政界に於ては明治末期より政黨の勢力が漸次增大し、英、米の政治形式を眞似て二大政黨が相對立し、互に政權を掌握せんがため專ら力を黨勢の擴張に用ひ、投票を得る競爭から民心に媚び、財界から政治資金を得て民間に撒布し、一旦政權を握るや財界に酬い地方を潤すの政策に沒頭し、反對黨との抗爭に精力を消耗して、建國の理想である海外への發展、國威の進展に力及ばず、折柄歐洲戰後の平和熱に浮かされ、軍事費の如きは不經濟的消耗財政なりとてこれを疎かにするのみならず、却つて軍縮を斷行するに至つた。彼等戰後の疲弊に乘じ、逆に國力の進展を圖るべき千載の好機に遭遇しながら、內には民心の頽廢と內攻に終始し、外には歐米の策略に乘りて國力の進展を抑へ、彼等の疲弊挽回を待つの結果となつたことは返すがへすも遺憾の極みである。歐米では日本の虛に乘じ、支那、滿洲に植民地的勢力を扶植して、歐洲に於ける戰爭の失を償はんがため、華盛頓會議や倫敦條約等に依り悉く日本抑壓に成功したがため、忽ち事大思想の支那人に歐米依存、日本輕侮の念を起さしめ、加ふるに老獪英の煽動や、赤色魔手の暗躍に益〻支那人を增長せしめたる結果、遂に滿洲事變や支那事變を惹起せしめ、東亞の兩大國互に喰みて相共に國力を消耗し、第二次歐洲大戰の如き千載の好機に際會しながら、亞細亞の總力を十二分に發揮し得ないのは、時運の然らしむるところとは言へ惜しき限りである。

青年夜話　終

昭和十六年五月二十五日印刷
昭和十六年五月三十日發行

青年夜話
（電略ヤワ）

定價金一圓三十錢
送料九錢

日本標準規格B列六號

製本 永島

著作者 東京市世田谷區玉川奥澤町三丁目三三〇 森本義一
發行者 東京市四谷區鹽町一丁目二十一番地 齊藤市平
印刷所 東京市牛込區早稲田鶴巻町三六二 尚兵館印刷所 主任 齊藤正治
發行所 東京市四谷區塩町一丁目二十一番地（四谷見附—本村町間電車通） 株式會社 尚兵館
電話四谷（三七四七番 三一二一番
振替東京七二五六一番
（電略シヨ）

不許複製

兵書・軍刀・軍用行李・軍用双眼鏡發賣

幹部候補生檢定問題

四六版・大袋二段裝組・九百頁。お買求めの時は尙兵館版と乞指定

定價二圓
送料十錢

★幹部候補生採用される迄は筆慶の檢定試驗があり幹候志願資格者は全力を盡し此の檢定に合格せねばならぬ。だが檢定は競爭が激しく初めから軍事專門的難問多し。

★此の檢定の成績の結果、名譽と誇りの幹候より將校となるか？一兵で終るか？

★本書は昭和九年幹候制度改正以來本年に至る迄毎年全國軍隊より御下附の實際出題檢定問題を餘さず秩序編輯し、之に夫々專門の權威將校を總動員して模範答案を施したものである。

★本書は幹部候補生のもの元組で、內容豐富正確權威は諸兄先輩の定評あるもの。本書を讀む者と讀まぬ者とは實力に斷然相違を生ず。

★本書は亦檢定合格後の「甲乙種幹部候補生後期試驗問答」の姉妹を有し、將來の連絡あるのも本書唯一無類のものである。

戰陣訓義解

【定價四十錢・送料六錢】

★これは近頃輩出する門外漢の說く無責任な小說風とは違ふ。眞の軍人道の立場より勅諭、勅語、御製、典令範の綱領及本文、古武士の德操及言行、古今戰例を引用して戰陣訓を各條每に內容深く分析解說し含蓄ある文を以て之が理解あらしむ。

典令範綱領義解

【定價四十錢・送料六錢】

★作戰要務令、各兵操典、軍隊教育令、軍隊內務書、其他各種典令範の綱領に就き各條項に亙り其の由來を說き、其の精神、教育、著眼を詳述し、各種事例を引用して剩す所なし。

自動砲手ノ詳解

【定價四十五錢・送料三錢】

★新步操によつて出現せる新兵器自動砲に就て其の敎練と射擊法の凡ゆる部門に亙り圖示し又詳解せるものにして自動砲手は必携すべき唯一の書なり。

步兵 初級幹部 野戰ノ參考

【定價一圓・送料六錢】

★步兵の初級幹部たる分隊長、小隊長、中隊幹部の野戰に於ける行動を十二分に指導すべき指針として必携のものにして左の內容の一端を見れば了解せん。

○內容略目○綱領・指揮法・分隊戰鬪・小隊戰鬪・中隊戰鬪・夜間戰鬪・彈藥及資材の補充・機關銃及自動砲・步兵砲・對戰車・對空・對瓦斯行動・特種戰鬪・陣中勤務等

實際的衛兵勤務ノ詳解

【定價六十錢・送料九錢】

★衛兵勤務に關する參考書は他にあるにはあるが、是皆規定に偏し理屈に走りて實務實行の體驗に依て指導するものは皆無である。本書は此の弊を除き最も手取早く實用に即して詳述したるものにして內容の豐富正確最新なること比類なし。

近來頻々に改正による諸法令制度に伴ひ絕えず內容の刷新を計れり。

上等兵候補者 下士官候補者 幹部候補生 試驗問答

【定價一圓・送料九錢】

★上等兵候補者、下士官候補者、幹部候補生に最も關係密接なる學科を選び一千餘頁に亙り詳細に問答式に解說せるもので、典範令の研究にも便なり。歩兵操典、作戰要務令綱領總則及第一部、諸兵射擊教範第二部、軍隊內務書、陸軍禮式令等を含む。

軍事學問答大全書

【定價二圓五十錢・送料十錢】

★陸軍に於ける軍事學科の凡てに亙り、典令範の細部に亙り、問答式に解說せるもので、歩操、作戰要務令各部、射擊教範各部、兵語の解、築城、築營、交通、劍術、體操、內務書禮式令、衞戍令、衞戍勤務令、刑法、懲罰令地形學、衞生法等を含む。又自分の好きな學科のみを研究したい場合に取りはずしが出來る樣に綴込自在になつて居る。

防諜法規集

【定價五十錢・送料六錢】

★此の重大危局に於ける國家總力戰に在りて防諜程刻下の急務はない。殊にそれが機密とは知らず不用意の裡に防諜を冒すものがよくある。これも防諜法規に對する心構へが不足だ

915
b
268

¥1.30